

福澤諭吉著

民情一新
印全



明治十二年
八月出版

著者者藏版

目錄

緒言

一丁

第一章

一九丁

保守ノ主義ト進取ノ主義トハ常ニ相對峙シ
テ其際ニ自カラ進歩ヲ見ル可シ

第二章

三五丁

人間社會ノ種族中孰レカ保守ノ主義ニ從ヒ
孰レカ進取ノ主義ニ從フ者ゾ

三章

五三丁

蒸氣船車電信印刷郵便ノ四者ハ千八百年代

ノ發明工夫ニシテ社會ノ心情ヲ變動スルノ
利器ナリ

第四章

七二丁

此利器ヲ利用シテ勢力ヲ得ルノ大ナルモノ
ハ進取ノ人ニ在リ魯國及ヒ其他ノ例ヲ見テ
知ル可シ

第五章

一〇八丁

今世ニ於テ國安ヲ維持スルノ法ハ平穩ノ間
ニ政權ヲ受授スルニ在リ英國及ヒ其他ノ治
風ヲ見テ知ル可シ

ニ政權ヲ受授スルニ在リ英國ノニシテ
風ナ見テ知ル可シ

民情一新緒言

世論皆云ク西洋諸國ハ文明開化ナリト此言誠ニ然リ余モ亦
決シテ其然ラザルヲ説ク者ニ非スト雖正唯漠然コレヲ文明
開化ト稱シテ其文明開化タル所以ノ事實ヲ指示明言スルニ
非サレバ之ヲ學ヒ之ヲ採用スルニ當テ大ナル過ナキヲ期ス
可ラズ抑モ彼ノ文明開化ハ土地ノ廣狹人口ノ多寡ニ在ラザ
ルハ無論、德教ノ盛衰ニモ在ラズ文學ノ前後ニモ在ラズ又理
論ノ深淺ニモ在ラズ試ニ亞細亞ト歐羅巴トヲ比較シテ東西
ニ行ハル、德教ノ旨ニ何等ノ差別アルヤ耶蘇モ孔子モ釋氏
モ正ト云ヘハ共ニ正ナリ邪ト云ヘハ共ニ邪ナリ互ニコレヲ

論辨シテ唯一場ノ宗門爭論ニ終ル可キノミ文明開化ノ深淺ニ
縁ナキモノナリ、又西洋ノ文學ト支那日本ノ文學トヲ比較シテ
流儀ユソ違ヘ其巧拙ニ至テハ決シテ判断ス可ラズ唯東
ノ文學ニ巧ナル者ガ西ノ文學ヲ知ラズシテ之ヲ拙ト稱シ、西
ニ巧ナル者ガ東ヲ知ラズシテ不文ト稱スルノミ、其巧拙文不
文ハ他ニ在ラスシテ各自ノ知不知ニ存スルモノナリ文學ノ
前後ヲ以テ決シテ文明開化ノ標準トスルニ足ラズ况ヤ理論
ノ深淺ニ於テニヤ西洋ノ理論決シテ深キニ非ズ東洋ノ理論
決シテ淺キニ非ズ或ハ其深遠ナルモノハ却テ往古ノ印度ニ
在リト云フモ可ナラン西洋諸國ノ文明開化ハ德教ニモ在ラ

決シテ淺キニ非ズ或ハ其深遠ナルモノハ却テ往古ノ印度ニ
在リト云フモ可ナラソ西洋諸國ノ文明開化ハ德教ニモ在ラ

ズ文學ニモ在ラズ又理論ニモ在ラザルナリ然ハ則チ之ヲ何處ニ求メテ可ナラン余ヲ以テ之ヲ見レバ其人民交通ノ便ニ在リト云ハザルヲ得ズ兩間ノ人類相互ニ交通往來スルモノ之ヲ社會ト云フ社會ニ大アリ小アリ活潑ナル者アリ無力ナル者アリ皆交通往來ノ便不便ニ由ラザルハナシ交通ノ便ヲ以テ恰モ人類ヲ摩擦刺衝シテ其身心ニ活潑ヲ致スルハ復タ閑靜ニ安ンズ可ラス之ヲ譬ヘハ山居獨坐ノ幽人ハ其心モ自カラ虛無ニシテ求ル所少ナシト雖此幽人ヲシテ市井喧嘩ノ地ニ移ラシムルキハ其心虛無ナラントズルモ決シテ得可ラズシテ耳目鼻口ノ働く自カラ世俗ニ通達スルヲ常トス風流

チ以テ云ヘバ一幽人ヲ俗了スルコナレ文明ノ點ヨリ之ヲ
評スルキハ其人ノ身心ヲ活潑ニシテ實地ノ勵チ得セシメタ
ルモノナリ人間社會モ亦斯ノ如シ交通ノ便ヲ開クハ人ノ身
心ヲ實用ニ導クノ一大原因ニシテ人心一度ヒ實用ニ赴クキ
ハ其社會ニ行ハル、文學ナリ理論ナリ皆實用ノ範圍ヲ脫ス
可ラズ故ニ東西ノ文學理論ヲ比較シテ其前後深淺ニ差ナシ
ト雖ニ甲ハ實用ニ遠クシテ乙ハ之ニ近キノ別アルハ其原因
遠ク社會交通ノ便不便ニ在リト云ハサルヲ得ズ東洋風流人
ノ評論ニハ西方ノ文學理論ハ俚俗ナリト云フナラント雖
ニ其俚俗ハ今ノ文明世界ノ有様ナレバ之ヲ人事進退ノ動力

ノ評論ニハ、西方ノ文學理論ハ俚俗ナリト云フ。ナラント雖
其俚俗ハ今ノ文明世界ノ有様ナレバ之ナ人專進思ノ動力

ト認メザルヲ得ザルナリ社會交通ノ大ナル斯ノ如クニシ
テ西洋諸國ニ於テハ夙ニ航海ノ術ヲ研究シ百年來其人民
ガ北海地中海ノ地方ニ往來スルノミナラズ遠ク大洋ヲ渡テ
地球上處トシテ到ラザルハナシ其物ヲ貿易シ其人ヲ移シ風
俗殊異ノ國土ニ到リ言語不通ノ人ニ交り名狀ス可ラザルノ
艱苦モアリシフナラン言フ可ラサルノ愉快モアリシフナラ
ン其心身ヲ切磋琢磨シテ其聞見ヲ廣クシ以テ活潑進取ノ氣
風ヲ養成シタルノ利益ハ東洋人民ノ嘗テ知ラサル所ナリ、サ
レバ今西洋諸國ノ文明開化ハ單ニ之ヲ其交通便利ノ一原因
ニ歸シ西洋諸國ハ開明ナリ何トナレバ則チ交通便利ナレバ

ナリ、東洋諸國ハ未タ開明ニ至ラサルモノアリ何トナレバ則
チ交通尙不便利ナレバナリト云ヲ可ナラン

然ルニ千八百年代ニ至テ蒸氣船蒸氣車電信郵便印刷ノ發明
工夫ヲ以テ此交通ノ路ニ長足ノ進歩ヲ爲シタルハ恰モ人間
社會ヲ顛覆スルノ一舉動ト云フ可シ本編ハ專ラ此發明工夫
ニ由テ民情ニ影響ヲ及ホシタル有様ヲ論シ蒸氣船車電信郵
便印刷ト四項ニ區別シタレニ其實ハ印刷モ蒸氣機關ヲ用ヒ
郵便ヲ配達スルモ蒸氣船車ニ附シ電信モ蒸氣ニ依テ實用ヲ
爲スコナレバ單ニ之ヲ蒸氣ノ一力ニ歸シテ人間社會ノ運動
力ハ蒸氣ニ在リト云フモ可ナリ千八百年ハ蒸氣ノ時代ナリ

爲スヲナレバ單ニ之ヲ蒸氣ノ一力ニ歸シテ人間社會ノ運動
カハ蒸氣ニ在リト云フモ可ナリ千八百年ハ蒸氣ノ時代ナリ

近時ノ文明ハ蒸氣ノ文明ナリト云フモ可ナリ蒸氣一度ヒ世
ニ行ハレテヨリ現ニ舊物ヲ顛覆スルハ無論、凡ソ人事ノ是非
得失ヲ論スルニ舊時ノ先轍ニ照ラシテ之ヲ判断ス可ラズ正
ニ是レ今日ハ世界一新ノ紀元ト稱ス可キ者ナリ昔年西洋人
ガ彼ノ緩漫遲鈍ナル帆船ヲ以テ僅ニ遠方ノ各地ニ交通シテ
尙且人民ニ活潑ノ氣風ヲ生シテ位ヲ東洋人ノ右ニ占メタリ
况ヤ今後コノ蒸氣船車ヲ以テ地球ノ水陸ヲ飛走シ電信郵便
印刷ノ利器ヲ以テ人民ノ思想ヲ傳達分布スルヲアラバ其勢
力ノ増進實ニ測ル可ラザルモノアラン一新又一新、一變又一
變、遂ニ舊物ヲ廢滅シ又變革シ盡スニ非サレバ止ムフナカル

可シ唯其際ニ聊カ舊慣ヲ維持シテ古俗ヲ存セントスルハ辛
フシテ改進急變ノ震動ヲ制節スルモノニシテ臨時ノ策タル
ニ過ギザルノミ此レヲ是レ知ラズシテ何者ノ腐儒カ舊物ヲ
墨守シ徹頭徹尾以テ大勢ノ方向ニ激セントス、何者ノ輕薄兒
カ古風ヲ裝ヒ以テ一時ヲ瞞着シテ社會ノ大計ヲ誤ル、咄々怪
事ナル哉然リト雖モ大勢ハ恰モ世ヲ載スルノ船ノ如ク心波
情海滔々タル其間ニ居テ獨リ之ニ抵抗シ獨リ之ヲ瞞着セン
トスルハ船ニ乗テ動クフナカラソナ欲スルモノニシテ其策
ノ拙ニシテ其心事ノ鄙シキ固ヨリ論ナシ此腐儒輕薄兒ノ如
キモ早晚大勢ノ船ニ乗セラレテ歸スル所アル可キノミ

ノ拙ニシテ其心事ノ鄙シキ固ヨリ論ナシ此腐儒輕薄兒ノ如
キモ早晩大勢ノ船ニ乗セラレテ歸スル所アル可キノミ

蒸氣電信ノ勢力斯ノ如シト雖ニ特ニ西洋人ノ私有ニ非ズ其
發明ハ西洋ニ在リト雖ニ西人モ自カラ之ヲ發明シ今日僅ニ
其功用ヲ試テ自カラ其勢力ノ强大ナルニ驚駭シ又狼狽スル
者ナリ西洋人ガ此利器ヲ發明シタルハ鳩ニシテ鷹ヲ生ム者
ノ如シ雛鷹ノ羽翼既ニ成レバ半天ニ飛揚シテ衆鳥ヲ驚擾シ
時トシテハ其所生ヲ嚇スルノアラン母鳩ノ驚駭狼狽モ亦
謂レナキニ非ズ然リ而シテ此鷹ノ生レタルハ僅ニ五十年以
來ニシテ其勢力ノ稍ヤ實際ニ顯ハレタルハ二三十年ニ足ラ
ズ今日ハ固ヨリ世界中共有ノ物ナレバ各國人民ノ氣力ニ應
シテヨク之ヲ利用スル者ハ人ヲ制シ、然ラザル者ハ人ニ制セ

ラレンノミ余嘗テ言アリ鉄ハ文明開化ノ塊ナリト蓋シ亦此文ノ意ナリ今後我日本ニ於テモ鉄ヲ堀リ鉄ヲ製シ之ヲ自由自在ニスルヲ軟弱ナル飴ヲ取扱フガ如クニシテ以テ鐵道ヲ敷キ電線ヲ架シ機關ヲ作り船ヲ作り武具ヲ作り器什ヲ作り人間需用ノ品物一切鉄ヲ元ニシテ製作スルニ至テ始テ文明開化ノ日本ヲ見ル可シ但シ人民ニ氣力ヲ生シテ然ル後ニヨク鉄ヲ用ル歟或ハ鉄ヲ用ヒテ然ル後ニヨク氣力ヲ生スル歟此點ニ就テハ必ズ世間ニ議論モアルヲナラン余モ亦コレヲ推考セザルニ非スト雖曰本編ノ趣旨ニ非サレバ之ヲ他日ノ

論ニ附ス

推考セザルニ非スト雖本編ノ趣旨ニ非サレバ之ヲ他日ノ

前ニ云ヘル如ク西洋人ハ蒸氣電信ノ發明ニ遭フテ正ニ狼狽スルモノナリ其狼狽ハ何ゾヤ民情ノ變化ニ在ルノミ老人ハ少年ノ活潑ニシテ其心事ノ早成ニ驚キ富人ハ貧者ノ不遜ヲ憤リ又一方ニハ其思想ノ高上シテ往々言論ニ條理アルヲ見テ之ニ感服シ政府ハ人民ニ苦情多クシテ飽クヲ知ラザルヲ憂ヒ又一方ニハ其氣力活潑ニシテ共ニ國ヲ守ルニ足ルヲ見テ之ヲ喜ヒ喜フガ如ク憂ルガ如ク憤ルガ如ク感服スルガ如ク之ヲ要スルニ唯正ニ狼狽スルモノヨリ外ナラズ彼ノ英國ノ風俗ノ如キハ最モ今日ノ民情ニ適スルモノト稱シテ尙且民情變化ノ徵候ヲ顯ハシ役夫ノ輩ガ「ストライキ」トテ仲間

ニ結約シ其賃銀ヲ貴クセンガ爲ニ職ニ就カズシテ雇主ヲ要スルノ風ハ近來ニ至テ益熾ナリト云フ貧賤者ノ心事次第ニ異常ナルヲ見ル可シ又同國「シッポン、ウチークフヒールド」氏出版ノ植民論ニ云ヘル「アリ

人民ノ教育ヲ稱贊スルハ方今ノ流行ニシテ社會ノ百善皆教育ヨリ生スト云ハザル者ナシ余モ亦甚タ同說ニシテ斯クアラン「コリ企望スル所ナレ」如何セん今日ニ至ルマデ未ダ之ニ由テ一善ノ生スルヲ見ズ下民ノ教育ハ其身ノ幸福ヲ増サズシテ却テ其心ノ不平ヲ増スニ足ル可キノミ我國普通教育ノ成跡トシテ見ル可キ者ハ方今「チャルチスマ」

幸 福 ナ 増 サズ シ テ 却 テ 其 心 ノ 不 平 ナ 增 ス ニ 足 ル 可 キ ノ ミ

我 國 普 通 教 育 ノ 成 錄 ト シ ヨ 見 レ 可 キ 者 ハ 方 今 ハ ヤ ル ヤス

ト「ソシヤリスム」トニ主義ノ流行ヲ得タリ。此主義ハ佛蘭西其
ル社會黨ト大同小異何レモ皆下民ノ權理ヲ主張シテ貧富ヲ平均シ
議院擇舉ノ法ヲ改革スル等ノ說ニシテ結局貧賤ニ左袒シテ富貴ヲ
犯スモ
ノナリ

警察ノ官吏ハ此黨與ノ說ヲ壓倒スルヲ甚タ易シト云ヒ又
或人ノ考ニハ此黨與ノ根元ハ微々タルモノニシテ憂ルニ
足ラズト云フ者アレモ余ニ以テ之ヲ觀レバ決シテ然ラズ
右二様ノ主義ハ畢竟人民ノ不平心ヲ表スルノ徵候ニシテ
其人民ハ役夫中ニ教育ヲ受ルヲ最モ深クシテ所謂士民ノ
境界ヲ去ルヲ最モ遠キ者ナリ此景況ヲ以テ察スレバ今後
教育ノ次第ニ分布スルニ隨ヒ正シク其割合ニ準シテ貧賤

ノ權理說モ亦次第ニ分布シ教育ニ一步ヲ進レバ不平ニモ
亦一分ヲ増シ多々益増進シテ富貴ノ權柄ト其私有トヲ犯
シ遂ニハ國安ヲ害スルニ至ル可シ亦危險ナラズヤ云々
右ハ植民ノ法ヲ勸ルノ辨論中斯ル有様ナルガ故ニ早ク過剰
ノ人口ヲ他處ニ移ス可シトノ說ニシテ本編ノ所記トハ其旨
ヲ異ニスレニ亦以テ英國民情ノ一斑ヲ窺見ル可シ、サレバ今
日ノ歐洲各國ハ人知進歩ノ爲ニ社會ノ騷擾ヲ釀シ朝野共ニ
未ダ其方向ヲ得ザルヤ明ナリ今後ノ成行ヲ察スルニ物價モ
尙昇降スルヲアラン賃銀ノ割合利足ノ法モ次第ニ改マルヲ
アラン文學技藝商賣工業一切ノ人事ニ影響ヲ及ホシテ隨テ

尚昇降スルヲアラン賃銀ノ割合利足ノ法モ次第ニ改マル
アラソ文學技藝商賣工業一切ノ人事ニ影響ナ及ホシテ隨處テ

ハ政府ノ治畧モ一變ス可キハ疑チ容レズ佛蘭西民法モ不都
合ノ條ヲ發見スフナラン魯西亞日耳曼ノ警察法モ無力ナル
ヲ悟ルコナラン所謂驚駭狼狽ノ世ノ中ト云フ可シ然ルニ爰
ニ怪シム可キハ我日本普通ノ學者論客ガ西洋ヲ盲信スルノ
一事ナリ十年以來世論ノ赴ク所ヲ察スルニ只管彼ノ事物ヲ
稱贊シ之ヲ欽慕シ之ニ心醉シ甚シキハ之ニ恐怖シテ毫モ疑
ノ念ヲ起サズ一モ西洋ニモ西洋トテ唯西洋ノ筆法ヲ將テ摸
本ニ供シ小ナルハ衣食住居ノ事ヨリ大ナルハ政令法制ノ事
ニ至ルマデモ其疑ハシキモノハ西洋ヲ標準ニ立テ、得失ヲ
評論スルモノ、如シ奇モ亦甚シト云フ可シ今日ノ西洋諸國

駭正ニ狼狽シテ方向ニ迷フ者ナリ他ノ狼狽スル者ヲ將テ以
テ我方向ノ標準ニ供スルハ狼狽ノ最モ甚シキ者ニ非スヤ某
家ニ火ヲ失シタリ家婦俄ニ起テ周章爲ス所ヲ知ラズ金箱ノ
大切ナルヲ忘却シテ僅ニ一個ノ行燈ヲ携ヘテ路傍ニ彷徨シ
タリ又某家ノ主人急病ニ罹リタリ家人醫ヲ招クヲ後ニシテ
先ヅ遠方ノ親戚ニ報知シタリ何レモ皆狼狽ニシテ火事急病
ニ處スルノ標準トスルニ足ラズ我日本ニモ西洋ノ文明ヲ談
スルニ當テ此家婦家人ヲ學フ者ナキヲ期ス可ラズ徒ラニ世
界識者ノ嘲ヲ買フニ足ル可キノミ故ニ云ク余ハ西洋ノ文明
ナラザルヲ說クニハ非ズト雖曰其文明ハ特ニ近時ノ文明ニ

在ルノ義ヲ辨スル者ナリ而シテ其近時ノ文明ハ蒸氣ノ發明ニ由テ生シ此發明ヲ以テ世界各國ノ民情ニ影響ヲ及ホシテ恰モ斯民ヲ一新シタルモノナレバ此一新ノ實況ニ應シテ事ヲ處スル者ニシテ始テ與ニ文明ヲ語ル可シ本編立論ノ旨ハ唯此一義ニ在ルノミ

又終ニ一言ヲ贅ス前記ノ如ク本編ハ蒸氣船車電信印刷郵便ノ四者ヲ以テ近時文明ノ元素ト爲シテ論ヲ立タルモノナレニ文明ノ事物ハ甚々繁多ニシテ必シモ此四者ニ限ラズトノ說モアラン若シ其說アラバ學者試ニ今ノ西洋ノ文明ヲ欽慕ス可キモノ、恐怖ス可キモノ、トシテ先ツ考ヲ定メ然ル後ニ

頓ニ不可思議ノ因縁ヲ以テ世界中ニ此四者ヲ滅却スル歟又ハ人類ヲシテ此四者ノ用法ヲ忘レシムルヲアラバ其時ニモ尙彼ノ西洋諸國ニ欽慕ス可キモノ恐怖ス可キモノアリヤ必ズ是レナキヲ見出ス可シ假令ヒ或ハ此他ニ見ル可キ事物アルモ其事物ハ西洋ニモアリ東洋ニモアリ是非長短各固有チ存シテ遽ニ優劣ヲ判断ス可ラザルモノナラン然ハ則チ今ノ世界中文明ノ元素ハ蒸氣以下ノ四者トシテ妨アルヲナシ其旨ハ繻々本編中ニ記シタレニ讀者ノ了解ヲ便ニセシガ爲ニ重複ヲ厭ハズ簡單ニ數行ノ文字ヲ緒言ノ末ニ附スルノミ明

治十二年七月七日著者誌

民情一新

福澤諭吉著

第一章

保守ノ主義ト進取ノ主義トハ常ニ相對峙シ
テ其際ニ自カラ進歩ヲ見ル可シ

在來ノ物ヲ保チ舊キ事ヲ守テ以テ當世ノ無事平穩ヲ謀ル之
ヲ保守ノ主義ト云フ新ラシキ事ニ進ミ奇ナル物ヲ取テ以テ
將來ノ盛大ヲ謀ル之ヲ進取ノ主義ト云フ或ハ之ヲ改進ト名
ルモ可ナリ此兩様ノ主義ハ世界古今何レノ社會ニモ行ハレ
テ各其勵フ顯ハシ又各一時ニ其勵ヲ逞フスルヲ能ハズシテ

相互ニ軋轢シ其軋轢鍊磨ノ際ニ些少ノ進歩ヲ見ルモノナリ
若シモ兩様ノ効其平均ヲ得スシテ一方ニ偏シ天下ノ事物頑
固ニ停滯シテ動カサル歟若シクハ遽ニ進動シテ止ル所ヲ忘
ル、中ハ大ニ人類ノ不幸ヲ致スフアリ譬へハ徳川二百五十
餘年ノ太平ヲ見ルニ元和偃武一度ヒ天下ノ平穏ヲ致シテ朝
野相共ニ其平穏無事ニ慣レ一事一物トシテ新奇ニ企テタル
モノナキガ如シ幕府ヲ始メ諸藩ニ於テモ唯舊法保守ヲ以テ
専一ト爲シ或ハ事ニ當テ法ナキモノハ先例ヲ以テ標準ニ定
メ如何ニ困難ナル事變ニ際スルモ古格先例ニ依ラサルハナ
シ概シテ之ヲ云ヘバ徳川ノ世ハ先例ノ力大ニシテ出格ノ効

シ概シテ之ヲ云ヘバ徳川ノ世ハ先例ノ力大ニシテ出格ノ勵

ナキ時代ト稱ス可キモノナリ二百五十年ノ久シキ寸鐵ヲ用ヒサルノ太平ハ古來世界中ニ其例ヲ見ズ此太平ノ割合ニシテ文明進歩ノ遲々タリシハ何ソヤ其原因蓋シ保守ノ固キニ過キタルモノト云ハサルヲ得ズ其事實ヲ計フレハ枚舉ニ遑アラスト雖ニ今一例ヲ示サン寛永年中耶穌教ヲ防クトヲ外國人ノ渡來ヲ禁シ我國人ノ外國ニ往來スルヲ止メ次テ天草一揆ノ後ハ益ユノ禁令ヲ嚴ニシテ一定ノ國法ト爲シ又隨テ一般ノ先例習慣ト爲リ何等ノ要用アルモ外國人ニ交リ外國ノ事情ヲ知ラント欲スル者ナキガ如シ文化年中ニハ魯西亞ノ軍船蝦夷地ニ來テ事ヲ起シ其騷擾前後八年、國ノ一大事變

トモ云フ可キモノナレ尙外情探索ノ念ハナクシテ横文ナ
ド讀テ海外ノ事ヲ談スルハ此時マデモ殆ト禁制ノ有様ナリ
キ畢竟外交拒絕ノ先例ヲ保守スルフ固キニ過キタルノ弊ト
云ハサルヲ得ズ若シモ寛永ノ後ニ假令ヒ外交ハ拒絕スルモ
天下ノ士人ニ許シテ荷蘭舶來ノ書籍ニテモ自由ニ讀ムコト
得セシメタラバ西洋ノ事情ハ「ペルリ」渡來ノ前ニ既ニ明ニシ
テ嘉永年中ノ狼狽モナカリシコナラン保守ニ偏スルノ害モ
亦大ナリト云フ可シ此一點ノミニ就テ考レバ當時社會ノ爲
ニ極テ願フ可キ事柄ニハ非サレ尙寧ロ二百五十年ノ太平ヲ
持續スルヨリモ其際ニ五十年又ハ百年ヲ隔テ、内亂外戰ノ

持續ノルニ以モ其際ニ五十年又ハ百年ナ隔テ、仄麗外戰ノ
劇シキモノニ逢ハ、爲ニ人心ヲ震動シテ却テ文明ノ進歩ヲ
助ルノ機ヲ得タルヲモアラン保守ノ禍ハ戰爭ノ禍ニ交易シ
テ益スルヲアリト云フモ可ナリ

保守ノ弊害極テ大ナリト雖ニ又一方ヨリ論スレバ進取ノ進
テ止ルヲ知ラサル者モ亦甚タ恐ル可シ都テ世事ノ弊害ヲ矯
ルハ斜ニ傾キタル柱ヲ槌以テ打直スガ如ク一槌未タ正チ得
ズ次テ二槌ヲ試ミニ二槌三槌正ヲ過キテ又反對ニ斜ニ傾キ、其
過キタルヲ直サントシテ一方ヨリ槌スレバ舊ノ斜傾ニ復シ
テ初ヨリ槌セサルニ若カズ蓋シ此柱ヲ正立セシムルノ法ハ
鉛直線ニ照ラシテ螺旋ノ器械ヲ用ヒ靜ニ其位地ニ至ラシム

ルニ在ルノミ柱ニ於テハ此器械ヲ用ユ可シト雖凡人事ハ則
チ然ラズ假令ヒ其弊害ノ明ニシテ斜ニ傾キタル柱ニ類スル
モノアルモ開闢以來人類ノ智ト情トニ於テハ鉛線螺旋ノ如
キ穎敏ナル効ヲ以テ其弊害ヲ矯メタル者アルヲ聞カズ之ヲ
矯メントスレバ矯ルニ過キテ直ヲ失ヒ其過キタルヲ止メン
トスレバ則チ舊ノ曲ニ復シ一矯又一矯恰モ鐵槌以テ斜柱ノ
根ヲ敲クニ異ナラズ况ヤ其正斜ヲ照ラス可キ鉛線モナキニ
於テヲヤ千七百年代佛蘭西ノ大騷亂ノ如キモ貴族門閥ノ弊
風ヲ憤テ之ヲ矯メ遂ニ其矯正ニ過キテ復タ亂暴ニ陥リ暴ヲ
以テ暴ニ代ルノ譏ヲ致シタル者ナリ又事柄ハ些細ナレ由我

以テ暴ニ代ルノ譏ヲ致シタル者ナリ又事柄ハ些細ナレ由我

國維新ノ初ニ於テ天下ノ人心舊弊ヲ惡ムノ勢ニ乘シ之ヲ矯
メ之ヲ排シテ止マル所ヲ忘レ凡ソ日本在來ノモノハ無形ノ
制度風俗モ有形ノ器品物件モ一切コレヲ棄テ、顧ルナキノ
情ナリシガ近來ニ至テハ其コレヲ棄ルニ過キタルヲ悟リ漸
ク舊ニ復スルノ景況アルガ如シ譬へハ名古屋城ノ金ノ鯱ノ
如シ之ヲ下タシテ復タ之ヲ上セ其上下ハ正ニ以テ天下人心
ノ進退ヲ見ル可シ、人心勢ニ乘シテ中正ヲ失フノ寶ヲ見ル可
シ、今ノ人類ノ智ト情トニ於テハ世事ノ弊ヲ矯メントシテ一
發一中ノ明ナキヲ見ル可シ、有形ノ鯱ニ於テモ尙且然リ無形
ノ制度風俗ニ至テハ必ス之ヨリモ甚シキモノアル可シ舊ヲ

矯メテ未タ正ニ至ラサルモノモアラン、既ニ正ニ過キテ還ル
ヲ知ラサルモノモアラン、過不及ノ兩端ニ居ナガラ正ニ之ヲ
中トシテ得々タルモノモアラン此一段ニ至テハ唯今ノ人類
ノ無智無識ヲ憾ムノミ

然リト雖凡世ノ文明開化ハ次第ニ進ムヲ常トシテ退クモノ
ハ甚タ稀ナリ其進ムハ何ソヤ進取ノ主義ニ依ラサルハナシ
進取ノ主義ハ其時代ニ在テハ或ハ奇怪ニシテ人ヲ驚カスヲ
アリト雖凡後世ヨリシテ之ヲ見レバ決シテ奇トスルニ足ラ
ス徳川ノ初代尚武一方ノ世ノ中ニ藤原惺窩林道春等ノ諸先
生ガ専ラ文學ヲ首唱シタルハ必ス世間ノ耳目ヲ驚カシタル

生ガ専ラ文學ヲ首唱シタルハ必ス世間ノ耳目ヲ驚カシタル

コナラン又寶曆明和ノ頃前野蘭化杉田齋先生ノ流が始テ
荷蘭ノ書ヲ講シタルガ如キハ當時ニ在テ奇怪ノ最モ甚シカ
リシ者ナラント雖ニ後世ニ至テハ天下ニ幾惺窩ヲ生シ幾道
春ヲ出シ凡ソ士人ニシテ文ヲ學ハサル者アレバ却テ之ヲ怪
シムノ勢ト爲リ彼ノ蘭學ナルモノモ時勢困難ノ其際ニ尙コ
レヲ捨テズシテ天保弘化ノ頃ハ翻譯出版ノ書モ甚タ少ナカ
ラズ文學ノ進歩以テ見ル可シ蘭學起原ノ事ハ蘭學事始ト云又古
フ 杉田氏藏版ノ書ニ詳ナリ

來ノ質朴節儉ヲ保守シテ新奇ノ驕奢華美ヲ嫌フモ古今ノ常
態ニシテ昔年西陣ノ織物ノ次第ニ精巧ヲ致シテ男女衣裳ノ
日ニ華美ニ移ルハ老成人ノ好マザリシコナラント雖ニ今日

ニ在テハ織工ノ巧ナルハ文明ノ徵ナリトテ之ヲ稱贊セサル
モノナシ又瓦葺ノ屋根モ今日ハ甚タ普通ナレ凡武江年表ヲ
見ルニ慶長六年江戸本町二丁目瀧山彌次兵衛ナル者始テ諸
人ニ秀デ、家ヲ作ラント工ミ其屋根ノ表通リ半分ヲ瓦ニテ
葺タレバ半瓦彌次兵衛ト異名ヲ取タリト云フアリ當時コ
ノ町人ハ其屋根ノ壯麗ヲ以テ江戸中ノ耳目ヲ驚カシタルコ
ナラン啻ニ驕奢華美ノ術ノミナラズ方今流行ノ人力車ノ如
キモ今ヲ去ルフ百年寛政年間、中井竹山先生ノ著シタル草茅
危言ノ中ニ別駕車トテ人車ノ一種ヲ道中宿驛ニ用ヒタラバ
大ニ便利ナラントテ記シタル者アリ製作コソ達ヘ今ノ人力

大ニ便利ナラントテ記シタル者アリ製作ヨリ達ヘ今ノ人力

車ノ工夫ナレ由其時代ニハ此先生ノ説ヲ奇怪トシテ顧ル者モナカリシニ百年ノ今日ニ至テ天下一般ノ流行トハ爲リタリ先生ノ靈若シ知ルアラバ地下ニ笑ヲ含ムコナラン右ノ如ク新奇ノ事物ハ容易ニ人情ニ適スルモノニ非ス今人ノ耳目ニ尋常普通ナルモノハ古人ヲ驚カシ古人ノ耳目ニ奇怪ニシテ行ハレサリシモノハ今日ニシテ始テ流行スルノミ今ノ耳口ヲ以テ古代ヲ想ヘバ其固陋偏屈實ニ笑フニ餘アルガ如クナレ由當時ニ在テハ決シテヨク進取ノ運動ヲ制シ之ラシテ一時ノ一種有力ノ働くシテヨク進取ノ運動ヲ制シ之ラシテ一時ノ自由ヲ得セシメサルモノナリ然リト雖由前ニ云ヘル如ク文

明ノ進歩ハ必ス進取ノ主義ニ依ラサルハナシ徳川ノ時代ニ
ハ保守ノ力過強ニシテ事物ノ局處ニ就テ之ヲ見レバ殆ト前
ニ進タル者ナキガ如クナレモ其時限中ノ數十年ヲ隔テ、前
後ヲ比較スレバ必ス大ニ進歩シタルモノヲ見ル可シ進取ノ
力モ亦盛ナリト云フ可シサレバ進取ハ積極ノ効ニシテ保守
ハ消極ノ効ト云ハサルヲ得ズ實ノ利益ハ積極ニ在テ此利益
ヲ取ルノ法ヲ緩和シ又制節スルハ消極ノ効ナリ蓋シ世界人
類ノ教育果シテ上達シテ所謂聰明睿知ノ域ニ至ルアラバ
心ノ欲スル所ニ進ミ意ノ適スル物ヲ取り嘗テ制節ヲ要セサ
ル可シト雖モ余輩ノ所見ニテハ數千百年ノ後何レノ日カ此

心ノ欲スル所ニ進ミ意ノ適スル物ヲ取リ嘗テ制節ヲ要セサ
レ可シト雖モ或ハ舊物ヲ保存シ又コレヲ變形シテ進取ノ

域ニ達ス可キヤ之ヲ保証スル能ハズ唯今ノ有様ニテハ進テ
文明ヲ取ルノ道ヲ本体ト爲シ事ノ今日ニ行ハル可ラサルハ
固ヨリ覺悟スル所ナレバ敢テ之ヲ間ハズ恰モ策ヲ今日ニ建
テ、勝テ數十年ノ後ニ期スルノミ

又進取ノ主義トテ只管舊ヲ棄テ、新ニ走ルト云フニ非ス其
本意ハ前ニ云ヘル如ク進テ文明ヲ取ルノ義ナレバ之ヲ取ル
ノ方便ヲ撰フニ固ヨリ事物ノ新舊ヲ間フ可ラズ新奇固ヨリ
取ル可シト雖モ或ハ舊物ヲ保存シ又コレヲ變形シテ進取ノ
道ニ利用ス可キモノモ多シ况ヤ今ノ人智ノ有様ニテ万代ノ
後ヲ洞察スルノ明ハ固ヨリ企望ス可キニ非ス唯十數年ノ未

來ヲ臆測シテ稍ヤ便利ナラント思フモノヲ取ルノ外ニ手段
アルコナシ譬へハ之ヲ政治上ニ論シ千万歳ニ期ス可ラサル
想像社會ナルモノヲ設ケテ考レバ先ツ人間世界ニ國ヲ分ツ
フモ無用ナリ政府ヲ立ルフモ無益ナリ國ナシ又政府ナシ何
ソ國君ヲ須ヒン何ソ官吏ヲ須ヒン況ヤ爵位等級ヲヤ唯是レ
小兒ノ戲ノミ斯ノ如ク論シ去レバ今ノ人間萬事ハ悉皆無益
ノ徒勞ニシテ進取ノ主義モ此想像社會ヲ目的トシテ進ム片
ハ殆ト世ニ爲ス可キモノナクシテ人事ヲ虛無ニスルヨリ外
ニ術ナキガ如クナレ由今ノ世界ノ文明ハ其年齢甚タ若クシ
テ其事甚タ未熟ナリ眞實ニ小兒ノ如キモノナレバ此小兒ノ

テ其事甚々未熟ナリ眞實ニ小兒ノ如キモノナレバ此小兒ノ

有様ニ從テ進ムノ一法アルノミ故ニ今日ニ在テ文明ヲ語ル者ハ萬歳ヲ謀ラズ千歳ヲ間ハズ唯僅ニ十數年ノ間ニ見込アレバ熱心シテ之ニ從事セザルヲ得ズ少年不學ノ徒ハ動モスレバ進取ノ義ヲ論スルニ劇ニ過キテ却テ世ノ嘲ヲ取リ人ノ信ヲ失フコナキニ非ス畢竟彼ノ想像社會ヲ唯心ニ想出スルノミニ非スシテ時トシテハ事實ニ行ハントスルノ念ヲ發シ或ハ實ニ之ヲ行ハント企テ之カ爲ニ其言行往々迂濶ナルモノアレバナリ今日我國ニ於テモ少シク民權論ノ端ヲ聞ケバ直ニ朝野ノ疑ヲ起シ或ハ之ヲ目シテ共和政治論ト云ヒ或ハ政府ニ敵スルモノト稱シテ一概ニ攘斥セラルヽノ弊ナキニ

非ス民權論ノ爲ニハ歎カハシキフナリ論者ノ爲ニハ殘念ナ
ルコナリ

第二章

人間社會ノ種族中孰レカ保守ノ主義ニ從ヒ

孰レカ進取ノ主義ニ從フ者ヅ

保守進取ノ兩義相對峙スルノ趣ハ前章ニ論シタリ今此一章ニ於テハ社會ノ種族ニ於テ如何ナル者ガ甲ノ主義ニ從ヒ如何ナル者ガ乙ノ主義ニ從フ歟其兩様各コレニ從フ所以ノ次

第ナ示サン

第一都鄙ノ別アリ 事物ノ流行ハ之ニ從フ者ノ人數ニ由テ勢力ヲ得ルモノナリ人戸稠密ノ地ニ於テハ其流行ヲ傳ルコ速ニシテ人數ヲ得ルコ容易ナリ既ニ人數ヲ以テ流行ノ勢ヲ

得レバ其勢ハ又以テ勢ヲ増シ遂ニハ事物ノ出處ヲ間ハズシ
テ唯流行ノ大勢ノミヲ見ルヲ常トス衣裳ノ時様ナリ唄ノ流
行ナリ其蔓延ノ勢ハ流行病ノ傳染ニ異ナラズ蓋シ病ノ傳染
スルモ衣裳唄ノ傳染スルモ其趣ハ一樣ニシテ其理モ亦一樣
ナラン唯人戸稠密ノ都會ニ於テ盛ナルヲ見ル可シ或ハ田舍
ノ地方ニ於テ新説ヲ唱ヘ新工夫ヲ企テントスルモノアルモ
其繁衍甚タ遲々ニシテ意ノ如クナラサルガ故ニ廣ク之ヲ施
サントスルニハ必ス都會ノ地ヲ經テ一度ヒ流行ノ勢ヲ成シ
延ヒテ復タ地方ニ傳ルヲ得ルノミ譜ノ時様流行都鄙ノ間ニ
必ス三五年ノ前後アルヲ見テ知ル可シ故ニ職人藝人ヨリ以

必ス三五年ノ前後アルヲ見テ知ル可シ故ニ職人藝人ヨリ以

上文人學士ニ至ルマデモ都會ノ地ニ居ヲ占ルニ非サレバ其名ヲ成シテ其說ヲ分布セシムルヲ得ズ都會ハ必スシモ人物ヲ生スルノ地ニ非スシテ唯コレニ居ヲ貸スノ逆旅ノミナレ既ニ人物輻湊ノ地ナレバ進取ノ主義ハ何事ニテモ先ツ都會ニ行ハレテ其勢モ亦盛ナラサルヲ得サルナリ

第二智愚ノ別アリ 有智無智相比較シテ其異ナル所ノ箇條ハ甚タ多シト雖ニ全体ニ就テ論スレバ一方ハ在來ノ事物ニ安ンシテ多テ求メズ、一方ハ之ニ安ンスル能ハズシテ進マントルスル者ナリ、一ハ足ルヲ知ル者ナリ、一ハ足ルヲ知ラズシテ之ヲ足スノ道ヲ求ル者ナリ、智術アル職人藝人ハ日ニ新工夫

チ運ラシテ一步ニテモ先人ノ右ニ出テ以テ世間ノ稱譽ヲ得
ントシ學者士君子ハ一事ニテモ古來未發ノ說ヲ發シテ社會
ノ面ヲ改革セントシ畢生ノ心事ハ唯古人ノ忘ル、者ヲ補ヒ
今世ニ不足スルモノヲ足サントスルニ在ルノミ凡ソ和漢西
洋著書多シト雖ニ紀事史類ヲ除クノ外ハ其論說皆古今ノ不
足ヲ補フテ文明ニ進マントスルモノニシテ其明識ト云ヒ卓
見ト稱スル者モ唯新工夫ヲ運ラシテ新說ヲ唱フル者ヨリ外
ナラズ明識卓見ニシテ獨立ノ精神アル士人ハ悉皆進取ノ人
ト云フ可レ或ハ紀事史類ノ文字ノミニ心ヲ用ヒ古人ノ說ノ
ミヲ信シテ全ク無見識ナル人物モナキニ非サレモ少シク才

ミナ信シテ全ク無見識ナル人物モナキニ非サレモ少シク才

學サヘアレバ假令ヒ自カラ新說ヲ唱ヘサルモ他ノ新說ヲ聞
テ之ニ驚駭スルコ甚シカラズシテ遂ニハ其說ヲ信シテ之ニ
入ルノ路モアル可シ方今我國ニテ西洋ノ新說ヲ聞テ此說ニ
入タル洋學者ハ悉皆舊ノ漢書生タルヲ見テモ之ヲ知ル可シ
唯舊習固守ノ固クシヲ如何トモス可ラサル者ハ無學文盲ノ
愚民ノミ此輩ハ百千年ノ舊習ニテ舊キ事物ニハ慣レタレモ
之ニ慣レテ進退ノ路ヲ知ラズ新說ヲ聞テ驚駭スルノミナラ
ズ甚シキハ驚駭スル程ノ効モナキ者ナリ之ヲ守舊ノ最モ甚
シキ者トス故ニ進取ノ主義ニ從フ者ハ智人ニ多クシテ愚人
ニ少ナシ

第三年齢ノ別アリ 少年ハ情高クシテ理ニ乏シク老成人ハ
理密ニシテ情ニ乏シ孔夫子ガ七十ニシテ則チ踰ヘズト云ヒ
シハ情ノ既ニ衰ヘテ理ノミチ存シ其理ニ從テ世ニ處スレハ
事々物々毫モ故障ナキ其時ノ有様チ自カラ察シテ發言セラ
レシコナラン歟但シ聖人ハ一種ノ神聖ニシテ必シモ年齢
ニ抱ハラズ其德義ヨク發達シテ則チ踰ヘサルノ位ニ至ルコ
モアラン又年老シテモ自カラ活潑々地ノ勤モアラン之チ是
非スルハ余輩ノ本意ニ非サレバ姑ク議論チ閣キ今ノ世界ニ
就テ云ヘバ假令ヒ聖人以下ノ凡庸ニテモ其人類チシテ悉皆
七十歳ノ老人ナラシメナバ世ノ中ニ則チ踰ル者ハ自カラ少

七十歳ノ老人ナラシメナバ世ノ中ニ則チ踰ル者ハ自カラ少

ナク万事靜謐ニシテ天地ハ寂然タルフナラン唯其天地ニ行
ハル、者ハ保守ノ主義ノミニシテ文明ノ進歩ハ遅々タル可
キノミ抑モ年少ノキハ血液ノ運動盛ニシテ神經ノ作用高ク
五官ノ働く都テ穎敏ナルガ故ニ之ヲ老体ノ人ニ比スレバ食フ
モノモ旨キヲ覺ヘ、視ルモノモ美大ニ見ヘ、嗅クモノモ芳シキ
ヲ覺ヘ、聽クモノモ面白ク聞ヘ、兩間ノ事物一トシテ愉快ナラ
ザルハナシ所謂情ノ高クシテ感動ノ銳キ時代ナリ然ルニ年
齟漸ク老シテ五官ノ作用次第ニ衰弱スルニ至レバ之ニ呈ス
ルニ往時ノ物ヲ以テスルモ復タ往時ノ愉快ヲ覺ヘズ加之往
時ニ感シタル愉快ヲバ之ヲ記憶ニ存シテ忘ル、フ能ハサル

ガ故ニ今日同物ヲ呈シテ同様ノ愉快ヲ覺ヘサレバ乃チ之ヲ
其身體老衰ノ因ニ求メスシテ却テ其物ノ厚薄ニ歸スルコナ
キニ非ス譬へバ永年他國ニ移住スル人ガ頻ニ故郷ヲ慕ヒ故
郷ノ味ヲ嗜ミ故郷ノ音ヲ悅ヒ故郷ノ山水ヲ美ナリトシ故郷
ノ城郭寺院ヲ洪大ナリトシテ其實ニ過ル者アルガ如シ田舎
翁ガ江戸ノ美味ヲ試ミ田舎ノ料理ニ若カズトテ之ヲ悅ハザ
ルモ其一例ナリ幼稚ノキニ素讀ヲ授ケラル師匠ハ生涯コレヲ
ノ關係ヲ解タル後モ尙コレヲ尊崇スルノ情ヲ存スル等其例ハ枚舉ニ
遑アラズ竊ニ案スルニ報國ノ心君臣ノ義父子ノ親師弟ノ關係等何レ
モ年少ノ情感高キ時節ニ生シテ生涯忘ル、フ能ハサルモノナラ
ン又年老夫妻ヲ亡ヒ再ヒ娶嫁シテ幸福薄シト云フモ亦一例ナリ加之
年老スレバ多年世事ノ實驗ヲ經テ利害得失辨別ノ理ニ熟シ

年老スレバ多年世事ノ實驗ヲ經テ利害得失辨別ノ理ニ熟シ

輕々新奇ニ走ルヲ好マズ是ニ於テカ當世ノ有様ニ不平ヲ訴
ヘ此レモ無益ナリ其レモ不用ナリ奇怪ナリ法外ナリトテ只
管現在ノ事物ヲ嫌フテ却テ數十年前已ガ紅顏ニシテ愉快ナ
リシ時ノ有様ニ復セントスル者ノ如シ結局進取ノ事ハ老大
ノ人ト共ニ語ル可ラサルモノナリ之ニ反シテ血氣ノ少年ハ
數十年前ヲ知ラズシテ得失辨別ノ理ニ乏シク唯今ノ有様ヲ
愉快ナリトシテ益多ヲ求メ此ノ物ヲ見レバ奇ナリ彼ノ説ヲ
聞ケバ妙ナリ失策ニ失望セズ多忙ニ困却セズ倒ルレバ復タ
起キ敗スレバ復タ企テ多々益進ムヲ知テ止ルヲ知ラズ蓋シ
其進マントスルハ何ソヤ足ルヲ知ラサレバナリ其足ルヲ知

ラサルトハ今ノ有様愉快ナリト雖モ尙コレヲ不満足トシテ
將來ヲ期スル者ナリ故ニ老成人モ年少モ共ニ當時ニ満足ス
ルニ非サレニ甲ハ之ヲ厭フテ後ロニ退カントシ乙ハ多ナ求
メテ前ニ進マントスル者ナリ若シニ今ノ人間社會ヲ舉テ之
ヲ老成人ノミノ手ニ附シタラバ失策ハ少ナクシテ鄭重ナラ
ント雖ニ人事ハ停滯不流ノ底ニ沈ム可シ之ニ反シテ年少ノ
ミニ任シタラバ事ハ活潑ニシテ動ク可シト雖ニ粗漏失策ノ
奇ニ富ムコナラン其得失ヲ論スルハ本章ノ旨ニ非ス唯保守
進取ノ勵年齢ニ由テ相異ナルノ狀ヲ示スノミ

第四貧富ノ別アリ 地面ヲ貸ス商賣ハ安全ナレニ利益少ナ

クシテ利ナ得ルヲ最モ多キモノハ博奕相場ナレニ之ヲ行フ
シ一廻船ノ商賣ハ利益多ケレヨ危シ資本ヲ要スルヲ最モ少ナ

第四貧富ノ別アリ 地面ヲ貸ス商賣ハ安全ナレニ利益少ナ

シ、廻船ノ商賣ハ利益多ケレニ危シ、資本ヲ要スルヲ最モ少ナ
クシテ利ヲ得ルヲ最モ多キモノハ博奕相場ナレニ之ヲ行フ
テ最モ危キモノナリ、凡ソ事ヲ爲スニ利益アレバ危險モ亦コ
レニ伴ヒ其危險ノ大小ニ隨テ利益ニ厚薄モアルモノニテ商
賣工業ノ企ヨリ政治ノノ改革等ニ至ルマテ都テ社會ニ新規ノ
事ヲ起スニハ何程ノ見込アルモ鬼神ニ非サルヨリ以下ハ慥
ニ其安全ヲ前知ス可ラズ一旦失敗スレバ產ヲ破ルノミナラ
ズ甚シキハ身ヲ殺スニ至ルヲアリ危險モ亦大ナリト云フ可
シ若シモ世ノ中ニ些少ノ資本ヲ要セズ些少ノ危險モナクシ
テ大利益ヲ得ベキ事アラバ萬人ハ萬人皆コレニ走ル可シト

雖ニ古今未タ其例ヲ見ズ故ニ巨萬ノ財産ヲ有スル歟又ハ左
ナクモ朝夕ニ不自由ナクシテ安樂ニ渡世スル人ノ爲ニ謀レ
バ容易ニ事ヲ企テザルヲ以テ得策トス亦古今ノ事實ニ於テ
モ此輩ハ常ニ事ヲ爲スノ念慮薄クシテ改革進歩ノ說ニ同意
スル者甚タ稀ナリ蓋シ利益ヲ得ルヲ好マサルニ非サレニ固
有ノモノヲ失ハソフ恐ルレバナリ唯寒貧無産ノ體ハ下無
智ノ小民ヨリ上學者士君子ニ至ルマデ事ヲ好マサル者ナシ
此流ノ人ハ事變ニ遭フテ失フモノナキノミナラズ或ハ大ニ
得ルノ望ナキニ非ズ其狀恰モ餉ヲ費サズシテ魚ヲ釣ルガ如
シ獲サレバ則チ已マンノミ獲レバ則チ無ヨリ有ヲ生スルモ

シ獲サレバ則チ已マソノミ獲レバ則チ無ヨリ有チ生スルモ

ノナレバ人間ノ快樂コノ右ニ出ルモノアル可ラズ此一事ハ
古今世界ノ例ニ於テ明白ナレバ特ニ爰ニ喋々ノ辨ヲ須ヒズ
又寒貧ニ加ルニ獨身ナレバ事ヲ企ルニ最モ適當ナリトス妻
子ヲ思フノ情ハ壯士ノ血熱ヲ挫ク一大劇劑ニシテ往々之ガ
爲ニ屈スル者多シ歴史ニ徵シテ古來決死ノ士ガ父母ニ訣別
シタル者ト妻子ヲ見捨タル者トヲ比較スルニ其數甚タ差違
アルヲ知ル可シ父母ヲ捨テ、他郷ニ居ル者ハ多ケレモ妻子
ニ別レテ世間ニ徘徊スル者ハ甚タ少ナシ此一點ニ就テ見レ
バ親子ノ親ミハ夫妻ノ情ノ熾ナルニ若カサルヲ明ナリ故ニ
現在ノ社會ニ安ンシテ舊物ヲ保守スル者ハ必ス富家ノ主人

ニシテ之ニ反スル者ハ寒貧獨身ノ壯年ナリト云ハサルヲ得
ズ漢土戰國ノ世ニ孟嘗君平原君ニ食客數千人ト云フハ必ス
此類ノ壯年生ニシテ當時社會ノ動力タリシフナラン又近代
佛蘭西ノ如キモ學者論客ニ獨身ノ人多クシテ之ガ爲ニ自カ
ラ世論ノ喧シキヲ増スト云フ日本ニテモ議論ノ盛ナル者ハ
必ス居家ヲ定メサル書生ノ中ニ多キフナラン此流ノ人ハ今
後増ス有テ減スル無シ其處置次第ニテ國ノ害ヲ爲ス可シ亦
大ニ益ヲ爲ス可シ

第五官民ノ別アリ　社會ノ人類ニハ貧富貴賤アリ智愚強弱
アリテ各其利害ヲ殊ニセリ此利害ノ殊ナル種族ヲ合シテ之

アリテ各其利害ヲ殊ニセリ此利害ノ殊ナル種族ヲ合シテ之

チ一處ノ政府ニ支配シ一定ノ法ヲ以テ制御セントスルヲナ
レバ其政法ノ一方ニ便利ナルモノハ一方ニ不便利ト爲リ此
ノ種族ニ益スル所アレバ彼ノ種族ニ損シテ孰レカ多少ノ不
平ナキヲ得ズ然リト雖此不便損害ヲ顧慮シテ各種各族ノ
需ニ應セントスル中ハ處々ニ政ヲ異ニシ時々ニ法ヲ改メサ
ルヲ得ズ是亦不平ノ原因ト爲リテ一層ノ騷擾ヲ増ス可キノ
ミナレバ政府タルモノハ到底人民個々ノ意ニ適スルヲハ能
ス可ラザルモノト覺悟ヲ定メ勉メテ其政ヲ簡ニシ其法ヲ明
ニシテ一定不變ノ旨ヲ主張スルヨリ外ニ手段アルヲナシ既
ニ一定不變トアレバ假令ヒ目下ニ小利害アルモノ之ヲ顧ルニ

遑アラズシテ恬トシテ看過スルノ情ナキニ非ス且コノ一定
ノ政法ヲ實際ニ行ハレシメントスルニハ必ス多少ノ威儀ヲ
要スルコナレバ其威權ノ大本トシテ腕力ヲ用意シ、之ヲ用意
シテ容易ニ之ニ訴ヘズ恰モ引テ放タズ鄭重ノ際ニ舊物ヲ保
守シテ現在ノ秩序ヲ亂サズ以テ社會ノ安全ヲ護ラントスル
モノナリ之ニ反シテ人民ハ各自其利害ヲ論シ各自其便不便
ヲ訴ヘテ嘗テ左右ヲ顧ルヲ要セサルガ故ニ局處ニ就テ之ヲ
見レハ所論皆正シキガ如ク所訴皆理アルガ如シ之ニ加ルニ
世間ニ不平者ハ多クシテ得意者ハ少ナク、得意者ハ黙シテ不
平者ハ喧シク、喧囂喋々止ム時ナクシテ遂ニ天下ノ公議輿論

ト爲リ其方向ハ新奇變動ヲ好ムヲ當トス且又權ヲ欲スルモ人類ノ常態ナレバ政府ノ人モ動モスレバ其權力ヲ誤用シテ人民ヲ抑壓セントシ之ヲ壓スルヲ愈重ケレバ人民ノ抵抗ハ愈強ク是ニ於テカ官民ノ軋轢ヲ生スルヲアリ結局官ハ保守ニ失シ民ハ進取ニ失スルモノト云フ可シ人品ノ罪ニ非ス勢ノ然ラシムルモノナリ

右五箇條ニ論スル所果シテ事實ニ於テ然ルモノナラバ進取ノ主義ニ從テ新奇變動ヲ企望スル者ハ都會ノ狀態ヲ熟知シテ智術ニ逞シク年齢少クシテ家貧ナル人民ノ中ニ之ヲ見ル可シ政府ハ富人ト老成人トニ依頼シテ田舎ノ愚民ヲ味方ニ

取り以テ保守ノ主義ヲ維持スルモノナリ但シ論說ノ上ニテ
斯ク兩様ニ區別スト雖ニ實際ニ於テハ例外ナル者モ固ヨリ
多カラシ唯人間社會ノ大勢ヲ論スレバ斯ノ如シト云フマデ
ノフナレバ讀者字句ニ拘泥シテ本旨ヲ誤ル勿レ

第三章

蒸氣船車電信印刷郵便ノ四者ハ千八百年代ノ發明工夫ニシテ社會ノ心情ヲ變動スルノ

利器ナリ

古來世ニ發明工夫甚タ渺ナカラズ天文化學器械學等何レモ時代ニ隨テ面目ヲ改メタルハ諸書ニ據テ之ヲ知ル可シ古ハ地動ノ說、元素ノ發明、火器ノ製造ヨリ近代ニハ種痘、瓦斯燈、紡績器械等其最著シキモノニシテ功德モ亦僅少ナラズト雖凡ソ其實用ノ最モ廣クシテ社會ノ全面ニ直接ノ影響ヲ及ホシ人類肉体ノ禍福ノミナラズ其内部ノ精神ヲ動カシテ智

徳ノ有様ヲモ一變シタルモノハ蒸氣船車電信ノ發明ト郵便印刷ノ工夫是ナリ而シテ其起原ヲ尋ルニ蒸氣船ハ千八百七年、蒸氣車ハ千八百二十五年、電信ハ千八百四十四年ヨリ始マリテ其實際ニ用ナ爲シタルハ未タ五十年ニ足ラズ郵便ノ法モ英國ニ於テ稍ヤ其体裁ヲ成シタルハ千六百年代ニ在リト雖凡其法ニ大變革ヲ加ヘテ今ノ盛大ヲ致シタルハ千八百四十年同國「ローランド、ヒル」氏ノ立案ニテ全國道程ノ遠近ヲ問ハズ書翰ノ目方半「オンス」ニ付郵便稅一ペニト定メテヨリ以來ノ「ナリ」國內ノ郵便稅ヲ平均スルノ法ハ古來未曾有ノ新工夫ニシテ「ヒル」氏一度ヒ此案ヲ立テ、ヨリ以後ハ歐米諸國大抵皆コレニ從ハサルモノナシ又印刷ノ法モ其由來ハ甚タ舊クシテ器械ノ種

來ノトナリ。國內ノ郵便稅ヲ平均スルノ法ハ古來未曾有ノ新工夫ニ
取締ヨリ一氏一度ヒ此案ヲ立テ、ヨリ以後ハ歐米諸國大

類少ナカラズト雖、古來ノ印法、平面ノ活字版ニ平面ノ板ヲ
以テ壓スルモノヲ改メテ圓柱ヲ用ヒ或ハ圓柱ニ活字ヲ植ヘ
或ハ平面ノ活字版ニ圓柱ヲ轉シテ摺ルノ新工夫ヲ加ヘシヨ
リ俄ニ機關ノ活動ヲ増シテ爾後又コレニ蒸氣力ヲ用ヒ印刷
ノ迅速ナルヲ以前ニ百倍シテ以テ今日ノ盛ナルニ至リシモ
ノナリ而シテ其圓柱ノ用法ハ千八百年代ノ初英國ノ「ニコル
ソン」及ヒ「サクリニ」國ノ「ヨーニフ」兩氏ノ創意ニ出タルフ
ニテ今ヲ去ル、僅ニ六十餘年ニ過キズ。

此大發明ヲ以テ世界ノ全面ヲ一變シタルハ今更喋々ノ辨テ
俟タス電信ヲ以テ商用ノ報知ヲ達シ蒸氣船車ヲ以テ貨物ヲ

運輸スルキハ物價モ各地ニ平均シテ假令ヒ投機ノ商賈ニテ
 モ復タ舊套ニ依頼ス可ラズ近來日本ニテモ奧羽越後ノ米價東京
 ノ價俄ニ騰貴シタルキモ其報知電信ヲ以テ直ニ地方ノ荷主ニ
 達セテ仲買商ハ却テ大勝利ヲ得ザルモ其一例トシテ見ル可シ 往昔
 荷蘭人ガ獨リ東印度ノ香料ヲ專賣シタルガ如キ商法ハ萬々
 今日ニ行ハル可キニ非ズ之ヲ小ニシテ云ヘハ我日本鎖國ノ
 時代ニ大坂ノ商人ガ長崎ニ渡來スル荷蘭船一艘ニ限アル荷
 物ヲ買締メテ一年ノ間日本國中藥品ノ相場ヲ自在ニシタル
 ガ如キモ今日ニ在テハ唯昔ノ物語ニ存スルノミ又蒸氣船ヲ
 作ルハ鉄道ヲ敷クヨリモ容易ナルガ爲ニ初ニハ船ノ用法
 ミ盛ナリシカ凡近年ニ至テハ鉄道ヲ作ルコ日一日ニ増加シ

作ルハ鐵道ヲ敷クヨリモ容易ナルガ爲ニ初ニハ船ノ用法

テ其止ム所ヲ知ル可ラズ若シモ今後歐羅巴ヨリ小亞細亞ノ
地方ニ縱横シテ印度及ヒ西伯里ノ地ニ亘リ延ヒテ支那ノ東
岸ニ至ルマテ數條ノ鐵道ヲ通シタラバ世界中ノ商賣ニ何等
ノ變ヲ生ス可キヤ英國ノ如キハ從前航海ノ利ヲ失フノミナ
ラズ其本國周圍ノ海ニ妨ケラレテ却テ大陸ノ國々ト商權ヲ
爭フヲ能ハサルノ勢ニ至ルモ圖ル可ラズ又國境防禦ノ一點
ニ就テ考レバ古ノ海國ハ海水ヲ以テ防禦ノ要害ト賴ミシモ
蒸氣軍艦ノ用法自在ヲ致シテヨリ海岸ノ防禦甚々困難ヲ覺
ヘシカニ今後鐵道ノ制盛ナルニ至ラバ陸ヲ走ルノ便利ハ水
ヲ渡ルモノニ百倍シテ隨テ海水モ亦要害ノ一項ト爲リ之ヲ

頼ムノ情ハ昔年未タ蒸氣船車ヲ見サル時ノ有様ニ復スルヲ
アラン形勢ノ變化モ亦甚シト云フ可シ故ニ蒸氣電信ハ唯商
賣ノ損徳ニ關スルノミナラズ戰爭ノ勝敗、交際ノ得失、政務ノ
遲速等凡ソ人間ノ禍福皆此利器ニ由ラザル者ナシ巧ニ之ヲ
用レバ今日ノ寒貧明日ノ富豪タル可シ其用法ヲ知ラサル者
ハ白晝ニ家産ヲ掠メ去ラレテ訴ル所アル可ラズ蒸氣電信ハ
人ヲ貧ニシ人ヲ富マシ人ヲ智ニシ人ヲ愚ニシ甚シキハ人ヲ
生カシ人ヲ殺シ國ヲ興シ國ヲ滅スフアリ西人ノ言ニ電信ハ
世界ノ面ヲ狹クシダリト余ハ則テ云ク電信ニ蒸氣ヲ交ヘ用
レバ時ヲ縮メテ事ヲ多クシ以テ人ノ壽命ヲ長フスト古人ハ

世界ノ面ヲ狹クシタリト余ハ則チ云ク電信ニ蒸氣ヲ交ヘ用
ハ一月ヲ費シテ文通シタル者今人ハ一分時間ニ其消息ヲ知
ル、古人七十歳ノ壽ヲ以テ爲シタル事業ハ今人三年ノ間ニ之
ヲ終リ、古人百名ノ力ヲ費シタル者ハ今人一手ヲ以テ之ヲ成
ス可シ故ニ今日ニ於テモ此利器ヲ用ル者ト用ヒザル者トヲ
比較スレバ其勢力權威ニ幾百倍ノ差違アルヲ知ル可シ
語ニ云ク智極テ勇生スト余ヲ以テ此語ヲ解スレバ智トハ必
スシモ事物ノ理ヲ考ヘテ工夫スルノ義ノミニ非ズ聞見ヲ博
クシテ事物ノ有様ヲ知ルト云フ意味ニモ取ル可シ即チ英語
ニテ云ヘバ「インフルメーション」ノ義ニ解シテ可チラソ人生嘗

テ聞見セサル事ニ就テハ鬼角コレニ憶シテ遽ニ進テ取ルノ
氣力ヲ生セザルモノナレ由偶然ニ之ヲ聞キ又コレヲ目擊ス
レバ思ノ外ノモノニテ一度ヒ之ニ取掛レバ又隨テ工夫モ付
キ氣力モ生シテ容易ニ功ヲ奏スルモノ多シ雲水ノ言ヲ聞テ
遊歴ヲ思立チ航海者ニ逢フテ船ニ乗ルノ念ヲ起スフアリ又
田舎ノ小民ガ度々法庭ニ出入シテ之ニ慣レ、怯夫ガ戰場ニ臨
テ勇氣ヲ生スルモ其例ナリ、サレバ爰ニ古人ノ語ヲ翻シ聞見
博クシテ勇生スト云フモ可ナラン而シテ今人ノ聞見ヲ博ク
スルガ爲ニ最モ有力ニシテ其勵ノ最モ廣大ナルモノハ印刷
ト郵便ノ右ニ出ルモノアル可ラズ譬へハ現今英國ノ人口凡

スルガ爲ニ最モ有力ニシテ其勵ノ最モ廣大ナルモノハ印刷
ト郵便ノ右ニ出ルモノアル可ラズ監督ハハ現今英國ノ人口ル

三千一百万、全國ニ發兌ノ新聞紙雜誌ノ類千六百九十二種、此
内首府龍動ニテ出版ノモノ三百二十種、全數ノ内毎日出版ノ
モノ、ミナ計フレバ全國百四十二種ノ内龍動ニハ十八種、發
賣ノ最モ盛ナルモノハ龍動ノ「デトリテレガラム」トテ日ニ二
十四万餘紙ヲ摺立テ之ニ亞クモノハ「スタンダード」ニテ日ニ
十七万餘チ發賣スト云フ他推シテ知ル可シ此幾巨萬ノ紙數
チ毎日毎週毎月ニ摺立テ之ヲ運搬スルニハ蒸氣車ニ附シテ
朝ニ印刷ノモノハ夕ニ全國ノ四隅ニ周子シ尙急ナルハ電信
ヲ以テシテ瞬間ニ報知ス可シ又雜誌新聞紙ノ外ニ郵便書翰
、往復モ亦非常ノ數ナリ千八百六十七年英國ニテ郵便物ノ

數、新聞紙等ヲ除テ書翰ノ數ノミ七億八千万餘ニシテ之ヲ人口三千一百萬ニ比例スレバ大數一人ニ付二十五通ノ割合ナリ盛ナリト云フ可シ千八百七十四年ノ記ニ據レバ郵便物ノ數、書翰類二億五千九百万ニシテ其計十三億零五百萬個ナリト云フ本文于八百六十七年以來增進ノ有様ヲ見ル可シ此雜誌新聞紙及ヒ郵便ノ書翰ハ即チ人ノ聞見ヲ交易スルノ具ニシテ凡ソ一國內外ノ異事新説ハ之ヲ讀ミ之ヲ語リ之ヲ聞キ之ヲ傳ヘテ殆ト洩ラサズ其狀恰モ國中毎人ノ眼前ニ明鏡ヲ揭ケテ他人ノ思想言行ヲ寫出スガ如シ聞見博クシテ勇生スノ語果シテ達フアナクバ英國人民ノ活潑ニシテ進取敢行ノ氣力ニ富ムモ亦偶然ニ非サルナリ右ハ唯英國ノ一例ナレ由佛蘭西

ザルノミ今日ノ有様ニテ退歩スノ者アノ其間ニ

シテ遠フアナクバ英國人民ノ活潑ニシテ進取敢行ノ氣力ニ
富ム吉木偶然ニ非サルナリ右ハ唯其體ノ一例ナレモ佛蘭西

其他大陸ノ諸國ニ於テモ大同小異ノミ可ハ英ノ盛ナルニ及
ハザルモノモアラント雖其及ハザルハ進テ未タ之ニ及ハ
ザルノミ今日ノ有様ニテ退歩スル者アルヲ聞カズ畢竟其原
因ヲ尋レハ印刷郵便ノ新工夫ニシテ蒸氣電信コレヲ助ルモ
ノト云ハサルヲ得ザルナリ

我日本ニテモ既ニ鐵道電信アレモ鐵道ハ未タ論スルニ足ヲ
ズ電信郵便モ人民未タ其用法ニ慣レス印刷ノ如キモ便利ハ
則チ便利ナレ毛尙未タ其盛ナルニ至ラズ譬へバ雑誌新聞紙
トテ全國ノ各社ヲ合シラ毎日ノ出版幾万紙モアル可ラス甚
タ微々タルガ如クナレ毛全体ノ勢ハ進ム有テ退ク無キ有様

ナレバ今後若シ國中縱横ニ鐵道ヲ敷キ人民モ次第ニ郵便電
信ノ用法ニ慣レテ心身活動ノ大切ニシテ其功能ノ大ナルヲ
知ルニ至ラバ我社會ノ形勢果シテ一變ス可キハ疑ヲ容レズ
譬へバ今ノ雑誌新聞郵書等モ地方ヘノ配達（昔年ニ比スレハ
百倍ノ便利アレ）遅々タレバコソ其便利少ナキガ如クナレ
凡日本國中心ス即日ニ達スルモノト爲ラバ其流行ハ今日ニ
幾倍シテ盛大ヲ致ス可シ唯文書ノ報通ノミナラズ理財上ニ
於テモ捨タレタル產物ニ價ヲ生シ專賣ノ品物ニ名聲ヲ落シ
僻遠無人ノ里モ鐵道ノ停車場ト爲リテ沿道ノ地價忽チ騰貴
スルモアラン、古來商船碇泊ノ港ニテ問屋ノ利ヲ專ニシタル

僻遠無人ノ里モ鐵道ノ停車場ト爲リテ沿道ノ地價忽チ騰貴
スレモアラソ、古來商船碇泊ノ港ニテ開墾ノ利ニ專ニシタル

地形ニテ一朝ニ産ヲ失フモアラン、唯貧富ノ浮沈平均スルノ
ミナラズ津輕松前ノ婦人ハ薩摩ニ嫁シ、長崎ノ男兒ハ箱館ノ
養子ト爲リ、昨日マテ東京ニ寄留シタル者ハ一夜ノ間ニ中國
ニ轉宅シテ又翌日ハ北國ニ往來シ、午前大坂ニ製シタル菓子
ハ午後東京ノ茶席ニ用ヒ、今朝四國ニ出版シタル新聞ニ就テ
ハタニ奥州ニ演説シ、千里比隣思想相通シテ方言語音ナマリ
マデモ平均スルニ至ル可シ又政治軍略ニ於テモ朝ニ西南ノ
警ヲ聞テ幾万ノ兵ハタユ馬關ヲ渡ル可ケレバ鎮臺ヲ各處ニ
設ルヲ要セズ或ハ今ノ縣廳モ多キニ過キテ不用ニ屬スル者
アル歟又ハ其法ヲ改ルコナラン尙些細ノ事ニ亘レバ公私勸

仕ノ者ガ亡父母ノ墓參ニトテ其墓所日本國中ニアレバ休暇
 ハ三日以上ヲ要セズ、各地ニ派出十里誥ノ旅費モ不都合ト爲
 リ裁判ノ呼出シニ八里誥ノ日數モ之ヲ廢セサルヲ得ズ、凡ソ
 今ノ日本社會日常ノ語ニ遠路ナルガ故ニ不都合、遠方ノ處ヲ
 太義、東西隔絶シテ斯ル間違ヲ生シ、音信ノ路ナキガ爲ニ知ラ
 プ、ナド云フ辭柄ハ地ヲ拂テ用ルヲ許サ、ルコナラン日本國
 中遠路アラサレバナリ 思フニ數十百年ノ後ハ戯作小説ノ本ニモ
 父母ノ行衛ヲ索メテ之ニ逢ハズ骨肉ノ兄弟刎頸ノ朋友圖ラズモ異鄉ニ邂逅シテ一別三年初テ對面ナド云フ馬
 琴流ノ趣向ハ全ク用ユ可ラズシテ作者モ困却スルヲナラノ又義太夫
 本ノ文句ニ江戸長崎國々ヘト云ヒ西ハ九州薩摩ガタ東ハ津輕蝦夷松
 前ト云フハ偏境絶域ノ想像ヲ現ハシタルモノナレ由既ニ今日ニ於テ
 ハ夜前長崎何町ノ出火ハ今朝警視ノ分署ニ張出シ三日前蝦夷地ヨリ
 出帆シタル人ハ土産ヲ持參シテ今日東京ノ家ニ來訪スルユエ十歳前

後ノ子供ハ義太夫ノ文句ヲ聞テ絶域ノ感ヲ生スルコナシ唯古老人人
ガ古ヲ想ヒ今ヲ見テ今ノ便利ヲ稱シ又隨テ時勢ノ變遷ヲ歎息スルノ
ミ平氣ナル者ハ少年ニシテ狼狽スル者ハ老人ナリ近時ノ
文明開化ハ老人ノ心事ヲ齟齬セシムルモノト云テ可ナリ辭柄ヲ用
ユ可ラズ事物ヲ内分ニス可ラズ況ヤ秘事密計ヲヤ若シモ秘
密ノ事ナラバ其事ハ唯本人一名ノ胸中ニ藏ルニ非サレバ僅
ニ信友ニ語ル可キノミ苟モ古來杜撰ノ習慣ニテ他人ノ耳目
ニ觸レナバ其耳目ハ二三ノ耳目ニ非ズシテ全國三千四百万
ノ耳目ト認メサルヲ得ズ秘密モ亦困難ナリト云フ可シ本編
第二章ニ異事新説ハ都會ニ行ハル、ソ速ニシテ田舎ノ地方
ニハ遲々タリト云ヒシモ蒸氣電信以下ノ利器眞實ニ其勢ヲ
逞フスル中ハ復タ都鄙ノ別ヲ爲ス可ラズ國ノ全面ヲ畿シテ

一場ノ都會ニ變シタルモノト云ハサルヲ得ズ地方ノ人民ト
ヲ決シテ蔑視ス可ラザルナリ

右ハ唯余ガ想像ヲ以テ今後ノ變化ヲ推シ量リシコナレバ固
ヨリ其箇條ヲ枚舉明言スル能ハズト雖ニ實際ニ於テ其變化
ノ意外ニ大ニシテ且其波及スル所、意外ニ廣カル可シトノコ
ハ今ヨリ之ヲ保証シテ大ナル過チナカル可シ日耳曼ニテ鐵道
ヲ作タレバ國中ニ字チ知ル者ノ數ヲ増シタリト云フ鐵道ト文學ト固ヨリ直接ノ關係
アラサレバ初ヨリ期シタルニ非サレビ其成跡ヲ見レバ斯ノ如シ此類
ノ事ハ他諸國ニモ甚タ少ナカラズ結局蒸氣電信等ノ功能ヲ明ニ前言スルハ人智ニ及ハザルコナリ
然リ而シテ此蒸氣電信印刷郵便ノ四者ハ開國以來西洋諸國ヨリ輸入シタル
モノニシテ開國ノ一舉ナクンバ我輩ハ今日ニ至ルマデモ此

氣電信印刷郵便ノ四者ハ開國以來西洋諸國ヨリ輸入シタル
モノニシテ開國ノ一舉ナクソバ我輩ハ今日ニ至ルマダモ此

利器アルヲ知ラザリシコナラン世ノ人々ハ唯嘉永年中西人
ノ日本ニ入タルヲ以テ我一大變動ナリトテ漫ニ之ニ驚クガ
如クナレ由余ハ唯其渡來ノミヲ驚ク者ニ非ス何トナレハ其
西人ナルモノ蒸氣電信發明前ノ西人ニシテ之ト條約ヲ結ヒ
タルヲナラバ深ク心ヲ勞スルニ足ラザレハナリ假令ヒ之ト
交ルモ唯鑽シタル國ヲ開テ双方交際ノ關係ヲ變シタルマデ
ノフナレバ舊套ノ海防ヲ嚴ニシテ通信貿易ス可キノミ若シ
或ハ其交際我ニ不便利ナラバ之ヲ謝絶スルモ可ナリ現ニ竊
永年中ニハ外國人ヲ打拂シテ彼レモ亦甘ンシテ我國ヲ去タ
ルニ非スヤ寛永以後彼ノ國人ハ日新ノ事業ニ勉強シ我ハ太

平ニ慣レテ怠タルフモアラント雖ニ文化年中ニ至ルマデモ
彼レヨリ我ニ對シテ活潑ナル勵チ示スフ能ハザルハ魯西亞
人ノ蝦夷地ニ亂暴チ企テ次テ其跡ナキチ見テモ知ル可シ舊
套ノ西人ナレバ我モ亦舊套チ以テ之ニ應シテ毫モ恐ル、ニ
足ラスト雖ニ唯嘉永年間始テ米人ノ我國ニ來テ通交ノ道チ
開タルハ何ソヤ余チ以テ之チ觀レバ其勵ハ米人ノ勵ニ非ス
シテ蒸氣ノ勵ト認メサルチ得ズ我ハ既ニ蒸氣ノ勵ニ由テ我
國ヲ開キ開國ノ初ニ其功能チ知リ又隨テ此蒸氣及ヒ電信等
チ我國ニ入レタリ故ニ我開國ハ單ニ外國ノ人ヲ入レタルニ
非ズシテ外國ニ發明工夫シタル社會活動ノ利器チ入レタル

チ我國ニ入レタリ故ニ我開國ハ單ニ外國ノ人チ入レタルニ
非ズシテ外國ニ發明工夫シタル社會活動ノ利器ナ入レタルニ

モノナリ既ニ此利器ナ入レテ之ヲ用ルキハ我開國ノ一舉ハ
唯外國ト日本ト相對スル其關係ノ變化ノミニ止マラズシテ
日本國中自家ノ變動チ生セザルヲ得ヌ結局我社會ハ今後コ
ノ利器ト共ニ尙動テ進ムモノト知ル可シ

第四章

此利器ヲ利用シテ勢力ヲ得ルノ大ナルモノ
ハ進取ノ人ニ在リ魯國及ヒ其他ノ例ヲ見テ

知ル可シ

蒸氣電信郵便印刷ノ利器タルハ前章ニ之ヲ記シ此利器ヲ用
ルヲ愈巧ナレバ權力ヲ得ルヲ愈大ナリトノ次第モ之ヲ論シ
タリ而シテ之ヲ利用スル者ハ保守者流ニ在ル歟改進者流ニ
在ル歟ト尋レバ其勵ヲ以テ甲ヲ利スルノ利ハ乙ヲ利スルノ
利ニ若カサルガ如シ固ヨリ政府ノ如キハ假令ヒ其性質止ム
ヲ得サルノ事情ヲ以テ保守ノ主義ニ從フモ素ト社會中ニ於

利ニ若カサルガ如シ固ヨリ政府ノ如キハ假令ヒ其性質止ム
ナ得サルノ事情ナ以テ保守ノ主義ニ從フモ素ト社會中ニ於

テ智力ニ乏シカラサル部分ナレバ之ヲ利用セサルニ非ズ之
ヲ用ヒテ活動スルモノモ多シト雖ニ畢竟此利器ノ性質ヲ詳
ニ察スレバ其用ハ止テ守ル者ノ爲ニハ大ナル功能ナクシテ
動ヲ進ム者ノ爲ニハ甚タ便利ナリト云ハサルヲ得ズ今世界
中ノ政府トシテ日ニ文明ニ進ムヲ好マザルモノナシ苟モ世
ニ新奇ニシテ便利ノ工夫アレバ必ス之ヲ採用シテ捨ルナカ
ラント欲スト雖ニ第二章ノ第五條ニ論スル如ク政府最大一
ノ職分ハ現在ノ秩序ヲ保護スルニ在テ其際ニハ自ラ鄭重ノ
風ナ存シ世上ノ進歩駿々タル其間ニモ獨り勇退自重ノ情ナ
キナ得ズ之ヲ譬ヘハ政府モ人民モ其文明ニ進ムノ有様ハ順

風ニ帆ヲ揚ケテ走ル船ノ如シト雖ニ政府ノ船ハ其走航ノ際ニ船中ノ事情ヲ察シ又外物ノ關係ヲ顧ルガ爲ニ時々港ニモ碇泊シ或ハ故サラニ行程ノ緩急ヲ爲シ尙甚シキハ順風ヲ空フシテ進マサルノモアル可シ之ニ反シテ人民急進ノ船ハ唯一方ニ進テ前後ニ顧ル所アラサレバ之ヲ政府ノ船ニ比スレバ自カラ緩急ノ差ナキヲ得ズ尋常ノ順風ニシテ尙且斯ノ如シ然ルニ今蒸氣電信印刷等ハ此順風ノ最モ劇烈ナルモノニシテ其風勢ヲ利スルモノハ直行急進ノ人民ニ在ル可キ其理甚タ明ナリ然リ而シテ人民ノ方ニ此便利ヲ得テ事ノ成跡如何ヲ尋レハ今ノ世界諸國ノ風ニ於テハ必ス官民ノ不和ヲ生

スルモノノ居多ナリトス譬へハ爰ニ名望高キ學士論客ガ一編
ノ雜誌ヲ發兌シ一場ノ演說會ヲ開テ新說ヲ唱ルコアレバ其
說ハ忽チ社會ノ全面ニ滲布シテ一時ニ人心ヲ動カシ熱心以
テ直ニ其方向ニ進マントスル人民ノ常態ナレ由政府ニ於テ
ハ遽ニ之ト共ニ方向ヲ同フスルコ能ハズ亦是レ自然ノ形勢
ニシテ官民ノ地位ヲ殊ニスル所ナリ然ルニ千七百年代思想
通達ノ利器(即テ蒸氣電信郵便印刷)未タ十分ノ便利ヲ致サ
ルノ時代ナレバ假令ヒ民間ニ如何ナル新說名案アルモ其流
布緩漫ナルガ故ニ政府ハ此緩漫ナル時間ヲ利シテ徐々ニ謀
チ爲シタルコナレ由今日ノ勢ニテハ人民ノ心情ハ彼ノ利器

ニ乗シテ一時ニ進退ヲ逞フシ心波情海滔々トシテ他ノ徐々ニ謀ヲ爲スモノヲ許サズ官民ノ軋轢益甚シカラサルヲ得サルナリ

文明開化次第ニ進歩スレバ人々皆道理ニ依頼シテ社會ハ次第ニ靜謐ヲ致ス可シトノ說ハ動モスレバ學者ノ口吻ニ聞ク所ナレモ畢竟漠然タル妄想ニシテ毫モ證據ナキモノナリ今ノ事物ノ進歩ヲ見テ果シテ之ヲ文明開化トスレバ其進歩スルニ從テ社會ノ騒擾ハ却テ益甚シカル可キノミ人民ハ既ニ直行進取ノ利器ヲ得タリ此勢ニ乘シテ顧テ政府ノ有様ヲ窺ヘバ其緩漫見ルニ堪ヘズシテ之ヲ蔑視セサルヲ得ズ 譯へハ日本ニ

自體ノ由來發令ノ後半叶其通行ヲ難澁ニシテ往來ヲ退クセシメ人氏ノ呼出シニハ差紙到來名主付添ニテ罷リ出テ此細ノ事ニ謹テ終日テ費大等ノアラバ人民

於テ今日モ尙舊幕時代ノ例ニ倣ヒ官令ハ祐筆ノ御家流ニ成リテ大目
付觸ノ田舎ニ達スルハ發令ノ後半年ヲ過キ、山川ノ險ハ要害ト稱シ態
ト其通行ヲ難澁ニシテ往來ヲ遲クセシメ、人民ノ呼出シニハ差紙到來
名主付添ニテ罷リ出テ些細ノ事ニ謹テ終日テ費ス等ノアラバ人民
ハ此處置ヲ見テ其緩漫不便利ヲ笑ハサル者ナカル可シ今後トテモ鐵
道ノ建築等次第ニ盛大ヲ致シテ人ノ舉動活潑ナルコ至ラバ今ノ政府
裁判所ニ出頭シ其所ニ默坐シテ呼出シナ待ツガ爲ニ三時間ヲ費スフ
アラバ堪ヘ難カラソ、日本國中ヲ巡廻スルニハ僅ニ三五日ヲ費シ旅行
ノ願書ニハ區戸長ノ奥印ヨリ地方廳ノ手ニ渡リ十餘日ヲ經テ始テ願
濟トアラバ是亦堪ヘ難カラソ是等ヲ計フレハ枚之ヲ蔑視シ之ヲ愚
擧ニ遑アラズ學者宜シク自カラ之ヲ想像ス可シ

嘵シ又コレヲ敵視シテ一時ニ之ヲ改メントスル其勢ハ恰モ
人民ニシテ政府ヲ壓制スルモノナレバ政府ハ此壓制ニ堪ヘ
ズシテ却テ大ニ抵抗セザルヲ得ズ其抵抗ノ術ハ唯專制抑壓
ノ一手段アルノミ之ヲ執政者ノ英斷ト云フ前年佛蘭西ニテ

第三世「ナポレオン」ガ在世ノ時ノ政畧、又近來ハ魯西亞日耳曼等ノ國勢ヲ見テモ其政畧ハ次第ニ專制ニ赴クモノ、如シ今其原因ヲ尋レバ人民ノ聞見俄ニ其域ヲ廣クシテ心情思想ノ運動一時ニ強勢ヲ致シタルモノヨリ外ナラズ或ハ千八百年代蒸氣電信等發明以後ノ文明開化ニ由テ政府ノ專制ヲ促シタリト云フモ可ナリ然リト雖ニ此專制ナルモノ果シテ能ク其功ヲ奏シテ人民ノ運動ヲ制シ盡ス可キヤ一大疑問ナレル余ハ斷シテ之ニ答テ否ト云ハサルヲ得ズ何トナレバ則チ政府ノ專制ハ一定ノ舊套ニシテ人民ノ進歩ニハ無限ノ新工夫アレバナリ譬ヘバ官ノ專制ノ力ヲ強クセントスルノ法ハ視

察ヲ密ニシ禁法ヲ嚴ニシテ書記演説ノ道ヲ限ル等ノ手段ナ
レ此手段ハ何レモ陳腐ニシテ或ハ今日直接ノ用ヲ爲スガ
如クナルモ後日間接ノ功ナキノミナラズ假令ヒ如何ナル強
大政府ニテモ其專制ハ直ニ蒸氣電信印刷郵便ノ力ニ敵セン
トスルモノナレバ之ニ敵シテ直接ノ即功モナキフナラン今
ノ世界ノ政府タルモノハ單ニ人民ニ對スルニ非シテ蒸氣
以下ノ利器ニ當ルモノト覺悟セサル可ラサルナリ試ニ彼ノ
胡蝶ヲ見ヨ其芋蠅タルキハ之ヲ御スルコ甚タ易シ指以テ撮
ム可シ箸以テ挾ム可シ或ハ其醜ヲ惡メバ足以テ踏殺スモ可
ナリト雖一旦蝶化スルニ至テハ翻々飛揚シテ復タ人ノ手

足ニ掛ラズ花ニ戯レ枝ニ舞ヒ意氣揚タトシテ恰モ塵間ノ人
物ヲ蔑視愚隣スルガ如クナレ毛羽翼既ニ成ル之ヲ如何トモ
ス可ラズ指以テ撮ム可ラザルナリ箸以テ挾ム可ラザルナリ
今改進世界ノ人民が思想通達ノ利誥ヲ得タルハ人休頓ニ羽
翼ヲ生スルモノニ異ナラズ千七百年代ノ人民ハ莘蠋ニシテ
八百年代ノ人ハ胡蝶ナリ莘蠋ヲ御スルノ制度習慣ヲ以テ胡
蝶ヲ制セントスルハ亦難カラズヤ故ニ云ク今ノ世界ノ諸政
府が次第ニ專制ニ赴クハ自カラ止ムヲ得サルノ事情ナレ
到底其功ヲ奏スルノ望ハアル可ラザルナリ
人事ノ相互ニ抵抗スル其趣ハ器械學ノ理ニ異ナラズシテ甲

ノカ百ナシテヒラヒラ犯セルヒモ亦百ナシテカニ應スルキ出ト
ヌ手ナシ以テ人ノ頭ヲ打ツハ頭ヲ以テ手ヲ打タル、ニ等シケ

ノ力百ヲ以テ乙ヲ犯セバ乙モ亦百ヲ以テ之ニ應スルヲ法ト
ス手ヲ以テ人ノ頭ヲ打ツハ頭ヲ以テ手ヲ打タルニ等シ之
ヲ打ツノ劇シキハ即チ打タルヽノ劇シキナリ故ニ政府ニテ
モ人民ニテモ其勢力次第ニ盛ニシテ一方ヲ壓スルヲ次第ニ
劇シケレバ一方ヨリ之ニ應スル勵モ亦次第ニ劇シカラサル
チ得ズ千八百七十年英國刊行「エカルド」氏所著ノ魯西亞近世
史ヲ見ルニ魯國ノ文明開化ハ「ペイトル」大帝以來未タ内地ニ
及ハズ唯西方諸國ニ面スル部分ノミ西方文明ノ風ニ從ヒ内
地ニ於テハ依然舊套ノ專制ヲ以テ人民ヲ御シ大ナル風波モ
ナカリシガ千八百二十五年ヨリ千八百五十五年ニ至ルマデ

「ニコラス」帝在位ノ間ニ俄ニ此專制ノ勢力ヲ増シ千八百四十八年ヨリ千八百五十四年ノ間ニ新法ヲ立テ、日耳曼、佛蘭西、英吉利ノ良書ヲ讀ムヲ禁シ、其雜誌新聞紙ヲ見ルヲ禁シ、國帝ノ直許ヲ得テ五百「ルーブル」ノ金ヲ拂フ者ニ非ザレハ外國ニ行クヲ禁シ、外國ノ技術家及ヒ學生ノ來テ國內ノ偏鄉ニ入ルヲ禁シ、又國中大學校ノ生徒ハ各校三百名以上ノ入校ヲ禁シ、有名ナル論說及ヒ學校讀本ヲ讀ムヲ禁シ、理論學ヲ教ヘ普通法律ヲ講スルノ業ヲ禁シ、都ヲ學校ノ生徒ハ兵學校ノ生徒ト觀做シテ尋常ノ學術技藝ハ帝ノ好マサル所ナリ云々トアルハ未曾有ノ專制ト云フ可シ然リ而シテ此帝ハ天性豪氣正直

視做シテ尋常ノ學術技藝ハ帝ノ好マサル所ナリ云々トアアル
ハ未曾有ノ專制ト云フ可シ然リ而シラ此帝ハ天性豪氣正直

質朴ナル君ニシテ假令ヒ其專制ハ帝家遺傳ノ風ナルモ心情
ノ剛柔ニ至テハ之ヲ「ペイトル」大帝ニ比シテ甚シキ差違アル
ノ証ヲ見ズ然ルニ大帝ハ頻ニ西方上國英佛日耳曼等ノ諸國ヲ云フノ文明ヲ
慕ヒ其物ヲ採用シ其學士ヲ招キ自國ノ人ニ強ヒテ外國ニ遊
歴セシムル等當時ノ事跡ヲ見レバ上國日新ノ文化ヲ欽慕シ
テ楷ク能ハサル者ノ如クナリシニ「ニユラヌ」帝ニ至テハ全ク
之ニ反對シ文明ヲ視ルコ敵ノ如クナルハ何ソヤ蓋シ偶然ニ
非ス保守進取ノ兩義相衝撞シタルモノナリ千六百年代ノペ
イトル「大帝ハ人民ヲ進取ニ導タル者ニシテ千八百年代ノニ
コラス」帝ハ人民ノ進取ニ困却シタル者ナリ人事自然ノ勢ナ

レモ其衝撞ノ結末如何ニ至テハ之ヲ知ル可ラズ左ニ同書中ノ大意ヲ譯シテ當時ノ形勢ヲ示サン

前畧此時ニ當テ「モスコー」及ヒ「ペイトルスボルフ」ノ書生輩漸ク上國ノ新説ヲ傳聞シテ之ヲ悅ヒ三十年來英佛日耳曼ニ發兌シタル新版ノ諸書ヲ購フテ私ニ之ヲ讀ミ就中「ホブズ」「フチグト、ボックル」「ダーウヰン」「ベンザム」「リュージ」「スチャアルト・ミル」「ロイスブランク」等諸大家ノ明説卓論ニ逢ヘバ大ニ感ナキヲ得ス天地間ニ人間社會ハ魯國ノミト思ヒ政府ハ唯魯政府ノミト思ヒシニ豈計ランヤ國境一帶ノ山ヲ踰ヘ一葦ノ水ヲ渡レバ文明ノ別乾坤ヲ開テ別ニ政府アリ又人民アリ然モ其人

ル者アリトハ亦奇ナラズヤ、唯奇ト稱ス可キノミニ非ズ亦美ナラズヤ、彼レモ人ナリ哉ノモ人ナリ哉ナリ又ナリ

ミト思ヒシニ豈計ランヤ國境一帶ノ山ヲ踰ヘ一葦ノ水ヲ渡
レバ文明ノ別乾坤チ開テ別ニ政府アリス人民アリ然モ其人

民ハ固有ノ權理ナル者ヲ持張シテ人事ノ秩序自カラ紊レザ
ル者アリトハ亦奇ナラズヤ、唯奇ト稱ス可キノミニ非ズ亦美
ナラズヤ、彼レモ人ナリ我レモ人ナリ我レハ其美ヲ取テ之ニ
微ハントテ其狀恰モ曉鐘夢ヲ破ルガ如ク春雷蟄ヲ啓クガ如
ク復タ蠶爾トシテ舊乾坤ニ棲息ス可ラズ世上ノ物論漸ク沸
騰セントスル其際ニ當テ千八百五十五年ニコラス帝殂シテ
今帝第二世アレキサンドル立ツ是レヨリ先キ「モスコ」府ノ
學士ニ「ヘルズン」ナル者アリ該府書生黨ノ巨魁ニシテ魯國社
會黨ノ元祖ナリ此學士嘗テ政治ノ事ニ付キ些細ノ得失ヲ談
シタルガ爲ニ先帝ノ忌諱ニ觸レ罪ヲ得テ禁錮セラレタリシ

ガ事ニ托シテ伊太里ニ行キ遂ニ英國龍勳府ニ走テ復タ歸ラズ同府ニ於テ出版ノ一局ヲ開キ毎週雑誌ヲ發兌シテ其表題ナ「ヨロコル」ト名ク「ヨロコル」ハ魯語半鐘ノ義ニシテ蓋シ人民ヲ警シムルノ意ナラン新帝即位ノ初ニ一編ノ論說ヲ「ヨロコル」ニ記シタル其文体ハ「ニコラス」ノ相續人タル「アレキサンドル」帝ニ贈ル書翰ニシテ痛ク前代諸帝ノ處置ヲ咎メ獨裁ノ政ヲ恣ニシテ下萬民ヲ窘メ時勢ニ戾リテ人民自由ノ大義ヲ妨ケタルハ畢竟前代ノ罪ナレバ其相續人タル今帝ハ此罪ヲ贖ハサル可ラズ其贖罪ノ爲ニトテ様々ノ所望ヲ述ヘ就中奴隸ノ法ヲ即時ニ廢ス可シトテ恐レ憚ル所モナク公然トシテ魯

ハサル可ラズ其贖罪ノ爲ニトテ様々ノ所望ヲ述ヘ就中奴隸
ノ法ヲ即時ニ廢ス可シトテ恐レ憚ル所モナク公然トシテ魯

國專制ノ治風ヲ攻擊シタルモノナリ此一編ノ雑誌世ニ出テ
テヨリ目チラズシテ「ヘルズン」ノ名聲ハ歐羅巴全洲ニ轟キ貴
賤上下ノ人民爭テ「ヨロヨル」ヲ購ヒ啻ニ學者士君子ノ之ヲ悅
フノミナラズ苟モ字ヲ知ル者ナレバ傳ヘ又傳ヘテ其名ヲ記
セサル者ナキニ至レリ他邦ニ於テ斯ノ如シ其本國ノ景況推
シテ知ル可シ幾千万ノ群民始テ政治自由ノ題目ヲ聞キ之ニ
驚キ之ヲ悅ヒ之ヲ稱賛シ之ニ心醉シテ餘念アルコナシ誌中
ニ記ス所ハ毫モ疑ヲ容レス恰モ唯命是從フ者ノ如クニシテ
今日記者ノ言ナ以テ人心ヲ左右スル其有様ハ昔年「ニコラス」
帝ガ政權ヲ以テ全國ヲ威服シタルノ勢ニ異ナラズ

魯政府ニ於テハ嚴ニ此雑誌ノ輸入貿賣ヲ禁シ「ヘルズン」ノ姓
名ヲ記スフモ許サズ甚シキハ計畧ヲ設ケテ「ヘルズン」ナル者
ハ既ニ死亡シテ此世ニ在ラズトマデニ諭告シタルフモアレ
臣嘗テ人心ノ運動ヲ止ルニ足ラズ全國到ル處トシテ「コロコ
ル」ヲ見サルハナシ千八百五十九年「ノウゴロット」ノ市ニ於テ
一時ニ十萬ノ部數ヲ沒入シタルフアリ他推シテ知ル可シ蓋
シ此部數ハ海面ヨリ來ラズシテ亞細亞ノ陸地ヨリ入タルモ
ノト云フ又此雑誌ニハ通信ノ者甚タ多クシテ魯國ノ四隅ヨ
リ中心ノ首府ニ至ルマデ凡ソ政治上ノ事情ハ一トシテ發兌
ノ本局ニ通セサル者ナシ廟堂ノ極秘密ニシテ貴要ノ大臣數

名ノ外ニ洩ル、ノ路ナキモノニ「モニコロコル」ノ本局ニハ早
ク既ニ之ヲ探偵シ得テ公然紙上ニ記シ以テ政府ノ耳目ヲ警
カスモノ少ナカラズ「コロコル」ノ一舉以テ魯國長夜ノ眠ヲ驚
破シテヨリ人民ハ恰モ狂スルガ如ク眩スルカ如クニシテ有
志者ト稱スルモノハ皆他事ヲ捨テ、雜誌新聞紙ノ發兌ヲ試
ミ千八百五十八年ヨリ千八百六十年ニ至ルマデ新ニ局ヲ開
テ出版シタルモノ七十七種、此内五十ハ「ペイトルスボルフ」ニ
十五ハ「モスコー」ニ其餘十種ハ他ノ都邑ニアルモノナリ各社
互ニ其盛大ヲ爭ヒ其自由主義ノ論鋒ヲ競フテ之ガタメ記者
ヲ雇フニ金ヲ愛マズペイトルスボルフノ富豪「ベスボロー」ニ

氏ハ毎週雑誌ノ草稿一葉ノ價百「ループル」ヲ以テ名文ヲ募リ
「モスコ」ノ學士「カトヨフ」氏ハ月誌出版ノ局ヲ買フガ爲ニ私
立ノ學校ヲ廢シタリ又政府ノ出版検査局ニ出仕セントスル
者モ甚少ナカラズ蓋シ一般ノ人心自由ヲ唱ルノ時節ナレ
バ亦自由ヲ以テ名譽ヲ得ントスルノ人情ニテ検査局ニ出仕
シテ出版ノ免許ヲ寛大ニスレバ自カラ當世流行ノ人品ニシ
テ政府ヲ恐レザルノ名ヲ得ベケレバナリ故ニ從前ハ人々皆
コノ局ノ責ニ當ルヲ恐レテ出仕ヲ避ケタル者今日ハ却テ之
ヲ悅ヒ家産ニ豐ナル平民又ハ扶助ノ年金ヲ受ル散官ノ輩ハ
皆コレヲ希望セサル者ナシ亦是レ一時ノ俠客風ニ出タルモ

ノナラン或ハ出版検査ノ事ニ付キ自由寛大ニ失シテ免職シ
家ニ産ナキ者アレバ周旋人ノ協議ニテ之ヲ補助スルノ風ヲ
成シ「モスコ」府ノ「クローネ」氏ノ如キハ此補助ヲ得テ却テ富
チ致シタリト云フ

魯國ノ自由說ハ殆ト一時ノ流行病ノ如クニシテ其勢力次第
ニ蔓延シ政府ニ於テモ之ヲ如何トモス可ラズ遂ニ千八百六
十一年二月ニ至テ奴隸ノ法ヲ廢シダレ此一舉ヲ以テ人心
ヲ鎮靜スルニ足ラズ蓋シ數百年來ノ舊慣ヲ一時ニ變革シタ
ルコナレバ奴主ノ不便利ハ固ヨリ論ヲ俟タズ其放解セラレ
タル奴輩モ頓ニ放タレタル籠ノ鳥ノ如ク方向ニ迷フテ行ク

所ヲ知ラズ籠ヲ出タルノ自由ハ以テ籠ヲ奪ハレタルノ難澁
ヲ償フニ足ラサレバナリ又一方ニハ是ヨリ先キ首府及ヒ「モ
スヨ」邊ニ於テ書生輩ハ多分書ヲ讀マスシテ唯雑誌新聞ノ
論說ノミヲ悅ヒ得々政治ヲ談シ國事ヲ議シ或ハ各處ニ集會
シ或ハ政府ニ建議シ其喧ニ堪ヘズ依テ千八百六十一年五月
文部卿「ブリチャーチン」舊海軍將官ニテ近頃日本ヨリ
歸り文部卿ニ轉任シタル者ノ立案ニテ
新法ヲ設ケ大學校ノ謝金ヲ増シテ毎半年ニ五十「ルトブル」ト
定メ以テ其入校ノ道ヲ塞キ又生徒輩ガ私ニ社ヲ結テ同校ノ
貧生ヲ救助スルタメ醵金スルヲ禁シ其醵金ヲ處分スルタメ
委員ヲ撰フヲ禁スル等様々ニ不自由ナル新法ヲ作テ學者世

界ノ物論ヲ鎮壓セント試ミシカニ僅ニ半年ニ過キズシテ復タ書生ノ騒擾ヲ引起シ遂ニ數名ノ生徒ヲ獄ニ下タスノミニシテ文部卿ノ策モ其功ヲ奏スルヲ得ズ

事態ノ困難斯ノ如クナル其際ニ「モスコ」ニ一學士アリ名ヲ「カトヨフ」ト云フ此人ハ積年英國ノ治風ヲ悅ヒ立憲政体ノ説ヲ頻ニ稱賛シテ稍ヤ世ニ知ラレタル者ナリシガ千八百六十二年夏ノ頃政府ノ内命ヲ得テ雜誌ヲ發兌シ誌中公然筆ヲ揮テ「ヘルズン」ノ説ヲ駁シ其過激ヲ罪シ其偏頗ヲ咎メ首府ノ騒擾ヲ釀シテ國安ヲ害シタル者ハ此七命記者ナリトテ憚ル所モナク論破攻撃シタリシニ世人モ初ハ唯珍ラシク之ヲ讀タ

ルモノ漸クシテ其論ニ服シテ「ヨロコル」ノ名聲モ稍衰運ニ傾カントスル其際ニ千八百六十六年四月四日「モスコ」ノ書生「カラコソフ」ナル者短銃ヲ以テ國帝ヲ狙擊シテ成ラズ直ニ捕縛シテ之ヲ糺問スレバ此者ハ貴族ニモ非ズ又「ポーランド」ノ人ニモ非ズシテ魯國ノ顛覆者流社會黨ノ一人ナリ抑モ此社會黨ハ近來魯ノ首府及ヒ「モスクワ」府ニ出現シタル者ニシテ日耳曼及ヒ「ポーランド」ノ人ハ之ニ關係スル「ナシ其主義ハ元ト佛蘭西ヨリ傳ヘ來リテ彼ノ「ヨロコル」ノ記者ヘルズン」ヲ以テ巨魁ト稱スト雖モ純粹ノ黨與ハ甚タ多カラズ唯政府ニ向テ衝撞スルノミナリシガ千八百六十三年魯政府ノ暴威ヲ

リ其處置ヲ悅ハズ乃チ世事ヲ變シテ他ノ自由黨ノ中ニ混同
以テ「ボーランド」ノ反民ヲ壓伏シテヨリ以來コノ黨與ハ固ヨ

以テ「ポーランド」ノ反民ヲ壓伏シテヨリ以來コノ黨與ハ固ヨ
リ其處置ヲ悅ハズ乃テ心事ヲ變シテ他ノ自由黨ノ中ニ混同
シ其說ニ謂ラク魯國ノ農產平均ノ說ヲ以テ先ツ之ヲ「ポーラ
ンド」ノ地方ニ施行シタラバ遂ニハ地主廢絶ノ事モ實際ニ行
ハル、ニアラントテ只管ユノ一點ニ論鋒ヲ向ケタレ氏社中
過激ノ徒ハ其考ノ因循緩漫ナルヲ悅ハズシテ別ニ一黨與ヲ
結ヒ其說ハ人間社會在來ノ秩序ヲバ悉皆顛覆廢絶スルヲ以
テ主義ト爲シ人ノ私有ヲ無ニシ、國ヲ無ニシ、寺院ヲ無ニシ、婚
姻ノ法ヲ無ニシ、社會ノ交際ヲ無ニスル等一切万事人爲ノ舊
物ヲ一掃セントスルノ企望ニシテ此大望ヲ成スニハ先ツ國

帝ヲ殺戮シテ之ヲ無ニシ以テ他ニ及サントスル者ナリ其黨
類固ヨリ少ナシト雖ニ其勢ハ極テ猖狂ナリト云フ可シ之ヲ
「ニヒリスト」ノ黨ト云フ「ニヒリスト」トハ虛無ノ義ナリ蓋シ此
黨類ハ世ノ中ニ如何ナル事物ヲモ採用セズシテ唯在來ノモ
ノチ顛覆廢絶シテ以テ愉快ヲ覺ル者ナレバナリ故ニ此虛無
黨ト自由黨ト其性質ヲ尋レバ固ヨリ天淵ノ差アレニ其所見
ハ自カラ相符合スルノ點ナキヲ得ズ即チ貴族ヲ貴テ人ノ種
族ヲ分ツチ惡ミ又ハ每人ニ財產ヲ分テ之ヲ私スルヲ惡ム等
ノ箇條ハ自由黨ノ常ニ主張スル所ニシテ虛無黨モ之ガ爲ニ
力ヲ得タルフ多シ

ノ箇條ハ自由黨ノ常ニ主張スル所ニシテ處無黨モ之ガ爲ニ
カナ得タルトタリ

右ノ如キ事情ナレバ政府ハ國中一切ノ自由黨ヲ擯斥シテ之
ヲ政敵ト視做シ之ヲ鎮靜壓伏スル爲ニハ保守專制ノ主義ニ
力ヲ盡サマルヲ得ズ乃チ「シユワロフ」侯ヲ以テ警察長官ト爲
シ兇徒「カラユソフ」及ヒ其黨類ノ吟味ハ「ムラビヨウ」侯ニ任シ
第一着ニ時ノ文部卿「ゴロフニン」ヲ黜ケテ之ニ代ルニ警察長
官ノ親友「ホルストトイ」ヲ以テス蓋シ其趣意ハ前ノ文部卿在職
ノ間ニ普通學及ヒ物理學ヲ獎勵シテ學者ノ便利ヲ増シ以テ
社會黨虛無黨ノ蔓延ヲ致シタリトノ罪ヲ以テナリ此他諸大
臣ノ黜陟甚タ少ナカラズシテ政府ハ全ク保守主義ノ政府ト
爲リ尙其翌月兇徒暴動ノ翌月即チ千八百六十六年五月ナリ國帝ノ詔ヲ下タシテ其大

意ニ云ク近來社會黨ノ陰謀ヲ以テ國民ノ權理私有及ヒ宗教
ヲ害セントスル其企ハ先般捕縛シタル兇徒ノ暴動ニ由テ事
跡既ニ明白其罪惡ム可シ蓋シ我政府ノ寬仁大度自主自由ノ
旨ヲ誤解シタルモノナリ今後國帝ハ益人民ノ權理私有ヲ重
ンジ國內ノ貴族ヲ保護シテ舊物ヲ守ル可ケレバ若シモ此旨
ニ戾テ騷擾ヲ釀ス者アラハ直ニ之ヲ殲滅シテ赦スコナカル
可シ云々トテ次テ「モスコ」出版ノ新聞紙ヲ停刊シ又廢止シ
雜誌ハ唯「カトヨフ」出版ノモノ「ヨロコル」ノ反對說ノミ盛ニシテ政府ノ
政畧ハ依然トシテ千八百七十年ニ至レリ

右ハ魯國近世史中千八百七十年マデノ大畧ナリ其人心騷擾

ノ端ハ「ニコラス」帝在位ノ時ニ開キ爾後人民ノ勢力ト政府ノ
勢力ト相互ニ衝突亂樂シテ一伸一縮其取局ヲ知ル可ラズ千

ノ端ハニコラス帝在位ノ時ニ開キ爾後人民ノ勢力ト政府ノ勢力ト相互ニ衝撞軋轢シテ一伸一縮其収局ヲ知ル可ラズ千八百七十年以來モ同様ノ形勢ニシテ政府ノ意ノ如クナラズ又人民ノ意ノ如クナラズ衝撞ハ益甚シクシテ本年四月モ復タ國帝ニ狙撃ヲ試タル者アリシト云フ其國情推シテ知ル可シ人民モ政府モ共ニ狼狽シテ方向ニ迷フ者ノ如シ抑モ人民自由ノ説ハ其由來最モ久シク亞米利加ノ建國モ元ト此説ノ結果ニシテ既ニ百餘年ヲ經タリサレバ世界中ニ自由論ヲ唱ルハ其年月モ久シク其人物モ多ク隨テ著書モ亦少ナカラスシテ地球上ノ或ル部分ニテハ既ニ已ニ陳腐ニ屬シタル地方

モアラント雖曰如何セシ千八百年代ノ初マデハ此說ヲ傳達分布スルノ方便ニ乏シクシテ世界中多數ノ人民ハ之ヲ知ラザリシノミ然ルニ三四十年以來蒸氣電信印刷郵便ノ法俄ニ進歩シテ人民ノ往來ヲ容易ニシ、物品ノ運送ヲ便利ニシ、印書ヲ速ニシテ其配附ヲ廣クシタルハ恰モ全世界中ニ思想傳達ノ大道ヲ開タルモノニシテ之ヲ譬ヘバ學者論客ノ思想論說ハ地ニ產スル物品ノ如ク蒸氣電信等ノ利器ハ之ヲ運送スル舟車ノ如シ地方ニ如何ナル銘產アルモ運送ノ舟車ヲ得サレバ世ニ之ヲ知テ用ル者アル可ラズ學者ノ新說モ傳達ノ利器ヲ得サレバ廣ク人心ヲ鼓舞スルニ足ラサルナリ近來英佛其

他ノ國々ニ大家先生勧ナカラズテ世界中ニ其新說ヲ悅フ
者甚タ多シト雖モ此諸大家ヲシテ千七百年代ヨリ其

チ得サレバ廣ク人心チ鼓舞スルニ足ラサルナリ近來英佛其

他ノ國々ニ大家先生尠ナカラズシテ世界中ニ其新説ヲ悅フ
者甚タ多シト雖モ若シモ此諸大家ヲシテ千七百年代ヨリ其
以前ニ在ラシメ爾後此利器ノ發明工夫ナカリセバ新説ノ勢
力モ今日ノ如ナラザルハ智者ヲ俟タズシテ明ナリ譬へバ千
七百七十年代亞米利加ニテ「トーマス、ペーン」ノ書ノ如キハ自
由論ノ最モ盛ナルモノナレモ當時唯其本國ノ人心ヲ鼓舞シ
タルマデニ止テ世界ノ他ノ部分ニ及ハサリシハ何ソヤ唯其
時代ニ其説ヲ傳達分布スルノ利器ナカリシガ爲ノミ固ヨリ
人民タル者ガ其權理ヲ主張シテ自由ノ味ヲ知ルニハ多少ノ
智德ヲ要スルコニテ且其國々ノ習慣モアリ教育ノ度モアリ

又貧富ノ差モアリテ必シモ他ノ説ヲサヘ聞ケバ直ニ振フ
可キニハ非サレニ其地方百般ノ事情ニ於テ人民ノ地位既ニ
已ニ上達シ進テ文明ヲ取り振テ自由論ニ歸ス可キ有様ニシ
テ尙逡巡默止スルハ畢竟新説分布ノ方便ニ乏シクシテ地方
人民ノ聞見狹キガ爲ナリト云ハザルヲ得ズ今魯國人民ノ如
キハ「ペイトル」大帝以來衣食モ漸ク足リ教育モ漸ク進ミ人民
進取ノ資本正ニ熟シタル其機ニ際シテ西方上國ノ新説ヲ俄
ニ輸入分布シタルフナレバ其騒擾モ亦決シテ偶然ニ非ス千
八百年代ニ於テ始テ然ル所以ノ原因アリテ内外ノ事情相投
シテ然ルモノト云フ可キナリ

自由進取ノ議論蔓延スルガ爲ニ官民共ニ狼狽シテ共ニ方向ニ迷フハ獨リ魯國ノミニ非ズ日耳曼其他君主政治ノ遺風ニ從テ人民ヲ制御セントスル國々ハ何レモ皆困難ヲ覺ヘサルハナシ其政府タル者ガ自由論ニ從ハントスルモ論者ノ所望ハ過大ニシテ事實コレニ從フ可ラズ去迎全ク之ヲ攘斥セントスルニハ論者ノ勢力モ亦小弱ナラズ之ニ從フガ如ク又コレヲ攘斥スルガ如ク曖昧ノ際ニ日一日ヲ消シ甚シキハ内國ノ不和ヲ醫スルノ方便トシテ故サラニ外戰ヲ企テ以テ一時ノ人心ヲ瞞着スルノ奇計ヲ運ラスニ至ル者アリ佛蘭西帝第三世「ナポレオン」ノ如キ是ナリ然ルニ本章ノ初ニ云ヘル如ク

人民ハ近時ノ利器ヲ得テ羽翼既ニ成リ政府一激スルト愈甚
シキガ故ニ政府モ亦時トシテハ大ニ壓力ヲ用ヒ爲ニ双方ノ
間ニ劇シキ激動ヲ生シテ其勢ハ之ヲ前代ニ比シテ幾倍ノ慘
酷ヲ増シ遂ニハ狙擊暗殺ノ暴舉ニ至ルコアリ佛帝第三「ナボ
レチン」在世ノ時及ヒ今ノ日耳曼等ノ事變ヲ見テ之ヲ知ル可
シ佛帝日耳曼帝及ヒ日ノ宰相ビスマルク等ガ度々
暗殺ニ罹ラントシタル事ハ新聞紙ニ見ル可シ 文明ト稱スル今
日ノ世界ナレバ是等ノ暴舉ハ次第ニ消滅ス可キ咎ニテ千八
百年代ニハ極メテ不似合ナルコナレ由前代ニ稀ニシテ却テ
今代ニ多ク然モ三四十年來歐洲ノ文明一面目ヲ改メタリト
稱スル正ニ其時限ニ當テ特ニ人心ノ穩ナラサルハ何ソヤ不

稱スル正ニ其時限ニ當テ特ニ人心ノ穏ナラサルハ何リヤ不

可思議ニ似テ決シテ不可思議ニ非ス蓋シ今ノ世界ノ人類ハ
常ニ理ト情トノ間ニ彷徨シテ歸スル所ヲ知ラズ之ヲ要スル
ニ細事ハ理ニ依頼シテ大事ハ情ニ由テ成ルノ風ナレバ其情
海ノ波ニ乘セラレテ非常ノ舉動ニ及フモ亦コレヲ如何トモ
ス可ラズ唯人類ニ道理推究ノ資ナキラ悲シムノミ然リ而シ
テ其情海ノ波ヲ揚ケタルモノヲ尋レバ千八百年代ニ發明工
夫シタル蒸氣船車電信印刷郵便ノ利器ト云ハザルヲ得サル
ナリ

千八百年代即チ西洋ニ所謂近時文明(モデルン、シウヰリジ
エーション)ノ時代ヲ界ニシテ其以前ニハ暗殺ノ暴舉稀ニシ

テ其以後ニ盛ナルハ西史ヲ見テ知ル可シ又日本ニ於テモ古來暗殺暴殺ノ事少ナカラズト雖丘多クハ君父ノ讐ヲ復スルタメ歟又ハ主人ニ忠義ノタメ歟又ハ敗軍ノ鬱憤ヲ晴ラスタメ歟又ハ私ノ怨ノタメ歟何レモ近ク直接ノ由縁アル者ヨリ外ナラズ然ルニ今ヲ去ルコ二十年江戸ノ櫻田ニ於テ徳川政府ノ御大老伊井公ヲ暗殺シテヨリ以來幕府ノ末年ニ至ルマデ又引續キ維新ノ後モ政府貴要ノ人ヲ暗殺シ又暗殺セントシタルコハ既ニ數回ニ及ヒタリ其趣意ハ大抵皆私怨ニモ非ス又復讐ニモ非ス唯政治上ニ不平ヲ抱テ其熱ニ狂シタル者ノ如シ假令ヒ或ハ他ニ原因アルモ暗

殺者ノ口實トスル所ニハ必ス政治上ノ事ヲ云ハサルモノ
ナシ此流ノ兇徒ハ幕政二百五十年ノ間ニハ極テ稀ニシテ
殆ト聞カザルモノニシテ二十年ヲ界ニシテ其以後頻ニ出
現セシハ何ソヤ二十年ハ我國開港近時ノ文明ヲ輸入シタ
ル紀元ナリ其文明ノ大變動ニ由テ人民ノ狼狽シタルモノ
ト云ハサルヲ得ス

第五章

今世ニ於テ國安ヲ維持スルノ法ハ平穩ノ間ニ政權ヲ受授スルニ在リ英國及ヒ其他ノ治

風ヲ見テ知ル可シ

前條々論スル所ニ據レバ政府ト人民トハ到底兩立ス可ラザルモノニシテ文明ノ進歩スルニ從テ益官民ノ衝撞ヲ増シ双方相互ニ其一方ヲ殲滅スルニ非サレバ其取局ヲ見ル可ラサルガ如シ歐洲諸國ノ形勢モ亦困難ナリト云フ可シ然ルニ此困難ノ最中ニ當テ政治ノ別世界ヲ開キヨク時勢ニ適シテ國安ヲ維持スルモノハ果シテ何處ニ在ルヤト尋レバ英國ノ治

風是ナリト答へサルヲ得ス抑モ英政ノ良否如何ニ就テハ世
上ニ著書譯書モ多クシテ人ノ普ク知ル所ナレバ爰ニ喋々ノ
辨ナ須タス數百年來コノ治風ヲ以テ一國ノ繁榮ヲ助ケタル
コナレバ固ヨリ良政ト云フ可シ其結果甚タ美ナリト雖毛余
カ特ニ英政ヲ美ナリトシテ之ヲ稱贊スルノ點ハ既往ノ結果
ニ在ラスシテ現今將來正ニ人文進歩ノ有様ニ適シテ相戾ラ
サルノ機轉ニ在ルモノナリ英國ニ政治ノ黨派二流アリ一ヲ
守舊ト云ヒ一ヲ改進ト稱シ常ニ相對峙シテ相容レザルガ如
クナレモ守舊必シモ頑陋ナラズ改進必シモ粗暴ナラス
唯古來ノ遺風ニ由テ人民中自カラ所見ノ異ナル者アリテ双

困難ノ最中ニ當テ政治ノ別世界ヲ開キヨク時勢ニ適シテ國
安ナ維持スルモノハ果シテ何處ニ在ルヤトヨ母レバ英國ノ治

方ニ分ルヽノミ此人民ノ中ヨリ人物ヲ撰舉シテ國事ヲ議ス
之ヲ國會ト云フ人民ヨリ撰舉スル者ハ國會ノ下院ニ會ス上院ノ議員ハ人民ノ撰舉ニ非サレモ殆ト權威ナキモノナレバ英ノ國會ノ權ハ全ク下院ニ在リト云フモ可ナリ故ニ國會ハ兩派政黨ノ名代人ヲ會スルノ場所ニシテ一事一議大抵皆所見ヲ異ニシテ之ヲ決スルニハ多數ヲ以テス内閣ノ諸大臣モ固ヨリ此兩派ノ孰レニ力屬スルハ無論、殊ニ執權ノ太政大臣タル者ハ必ス一派ノ首領ナルガ故ニ此ノ黨派ノ議論ニ權ヲ得レハ其首領ハ乃チ政府ノ全權ヲ握テ黨派ノ人物モ皆隨ヲ貴要ノ地位ヲ占メ國會多數ノ人ト共ニ國事ヲ議決シテ之ヲ施行スルニ妨アルヲナシ且政府ニ地位ヲ占ルト雖モ國會議員ノ籍ヲ脫スルニ非サル

且政府ニ地位ヲ占ルト雖モ國會議員ノ籍ヲ脱スレニ非サル

ガ故ニ政府ニ在テハ官員タリ國會ニ在テハ議員タリ恰モ行政ト議政トヲ兼ルノ姿ナレバ自カラ勢力モ盛ニシテ事ヲ爲スニ易シ、サレモ歲月ヲ經ルニ從ヒ人氣ノ方向ヲ改メ政府黨ノ論ニ左袒スル者減少シテ一方ノ黨派ニ權力ヲ増シ其議事常ニ多數ナレバ則チ之ヲ全國人心ノ赴ク所ト認メ政府改革ノ投票(ウナート、ヲフ、ケレヂート)ヲ以テ執權以下皆政府ノ職ヲ去テ他ノ黨派ニ譲リ退テ尋常ノ議員タルヲ舊ノ如シ但シ政府ノ位ヲ去レバトテ其言路ヲ塞クニ非ズ前ノ執權ハ即チ今ノ國會中一黨派ノ首領ニシテ國事ニ心ヲ用ヒテ之ヲ談論スルハ在職ノ時ニ異ナラズ唯全權ヲ以テ施行スルヲ得サル

ノミ政權ノ受授平穩ニシテ其機轉滑ナリト云フ可シ且又兩黨相分レテ守舊ト改進ト其名ヲ異ニシ名義ノミニ就テ見レハ水火相敵スルガ如クシテ其相互ニ政權ヲ握ルニ隨テ全國ノ機關忽チ一變ス可キヤニ思ハルレニ事實ニ於テハ決シテ然ラズ前ニ云ヘル如ク守舊心スシモ頑陋ナラズ改進必シモ粗暴ナラズ等シク是レ英國文明中ノ人民ニシテ全休ノ方向テ殊ニスルニ非ス其相互ニ背馳シテ爭フ所ノ點ハ誠ニ些細ノミ之ヲ衣服ニ譬フレハ守舊モ改進モ其服制ノ長袖カ筒袖カニ於テハ固ヨリ相同シト雖凡唯縫裁ノ時様ノミニ異ニスル者ノ如シ今ノ魯西亞ニテ王室ト虛無黨ト相敵シ昔年我

日本ニテ攘夷家ト開國家ト相容レサリシガ如キ者ニハ非サ
ルナリ學者之ヲ誤解ス可ラズ、サレモ既ニ兩黨ヲ分テ政權ヲ
爭ヒ互ニ陳新交代スレバ其交代ノ時ハ即チ舊政府ヲ排シテ
新政府ヲ開クモノニシテ之ヲ政府ノ顛覆ト名ケザルヲ得ズ
故ニ英ノ政府ハ數年ノ間ニ必ス顛覆スル者ト云フモ可ナリ
唯兵力ヲ用ヒザルノミ機轉滑ナリトハ即チ是ノ謂ナリ

右ノ如ク政府ノ改革諸大臣ノ陳新交代ハ全ク國會ノ論勢ニ
任シテ其會ニハ大臣モ亦議員ト爲リテ之ニ參與シ眞ニ全國
人民ノ意見ヲ吐露スルノ公會ト認ル所ノモノナレバ此公會
ノ決議ニ由テ政府ノ位ヲ去レバトテ其人ノ体面ヲ損ルニ足

ラズ假令ヒ或ハ不平ヲ抱クモ之ヲ訴ルニ由ナシ又舊政府ニ
代テ新政府ヲ開クモ其持續スルト否トハ自家ノ力ノミニ在
ラズシテ他ニ任スルフナレバ深ク之ヲ榮トスルニ足ラズ一
進一退其持續スル時限五年以上ナル者ハ甚タ稀ニシテ平均
三四年ニ過キズ不平モ三四四年ナリ得意モ三四四年ナリ榮辱ノ
念自カラ淡白ニシテ胸中ニ餘裕ヲ存ス可シ故ニ國中ニ如何
ナル新説劇論ヲ唱ルモ之ヲ拒ム者ナシ之ヲ唱ヘ之ヲ論シ之
ヲ分布傳達シテ呆シテヨク天下ノ人心ヲ籠絡スレバ政府ハ
之ニ席ヲ讓ルベキノミ之ヲ要スルニ英ノ政府ニハ一時一定
ノ論アリト雖凡世不變ノ恒ナキモノ、如シ此ノ政黨ニ權

ノ論アリト雖凡永世不變ノ恒ナキモノ、如シ此ノ政黨ニ權

ヲ得テ政府ノ地位ヲ占レバ其間ハ其黨ノ論ヲ持張シテ容易ニ動クフナシ即チ一定ノ論ナリ、サレ由人心ノ方向時勢ノ變遷ニ從テ政府ヲ改レバ初ノ一定論モ亦通用ス可ラズ永世不變ニ非ザルナリ、田舎ニ簡單ナル水車アリ車ノ軸ヨリ丁字形ニシテ兩腕ヲ出シ腕ノ端ニ水槽ヲ附シテ流水ノ筧カキヨリ落ルモノヲ受ケ其水一槽ニ滿レバ則チ轉シテ他ノ一槽ヲ出現シ一槽又一槽満レバ落チ、落レバ復タ昇リ其機轉甚タ奇妙ナリ若シモ此水車ノ軸ヲ支ヘテ轉回ヲ止メ片腕ノ一槽ノミニ水ヲ受ケテ其壓力ニ抵抗セシメタラバ日ナラズシテ腕木ハ打折セシノミ英ノ政府モ亦ユノ水車ノ如キモノニシテ千八百

年代文明ノ進歩ニ遭ヒヨク其壓力ニ堪ヘテ嘗テ政治ノ仕組ニ震動ヲ覺ヘサルハ政黨ノ兩派一進一退其機轉ノ妙處ト云ハサルヲ得ス唯英國ノミナラズ荷蘭ナリ瑞西ナリ今日ヨク國安ヲ維持シテ文明ニ進ム者ハ其治風必ス英政ニ類スル所アレバナリ魯西亞ノ如キハ政治ノ車軸ニ巨大ナル水槽ヲ附シ瀑布ノ壓力ニモ抵抗セントスルノ勢ヲ以テ勉勵爭鬪スルフナレ到底其瀑布ノ源ヲ塞クノ術ナシ或ハ政府ノ人モ今ノ政略ヲ以テ全ク得策トスルニ非ザル可シト雖ニ如何セン一大帝國全面ノ有様ヲ左顧右観スレバ亦斷シテ自由ノ風ニ從フ可キニモ非ズ畢竟其暴政ハ止ムヲ得ザルニ出タルノ策

ニシテ之ヲ姑息中ノ果斷ト云フモ可ナラン當路者ノ苦心想
見ル可キナリ或ハ去テ亞細亞大洲ノ中央ヲ見レバ其國內無
事ニシテヨク社會ノ秩序ヲ存スル者アルガ如クナレ由其然
ル由縁ハ他ナシ人民ノ聞見狹クシテ未タ文明ヲ知ラザルガ
爲ノミ試ニ今後支那ノ國內ニ鉄道電信線ヲ架シ印刷ノ器械
ヲ採用シテ郵便ノ法ヲ施行シタラバ彼ノ人民モ亦決シテ默
止スル者ニ非ズ必ス其社會ニ大震動ヲ起ス可キハ智者ヲ俟
タスシテ明ナリ滿清ノ執政者ハ之ヲ知テ文明ヲ拒ム者歟或
ハ知ラズシテ偶然ニ之ヲ嫌フ者歟何レニモ千八百年代ノ文
明ヲ國ニ入レテ舊政府ノ風ヲ維持セントスルハ萬々企望ス

可キ事ニ非ス我日本ノ徳川政府モ之ガ爲ニ倒レタリ滿清政府ニシテ獨リヨク之ニ抵抗スルヲ得シヤ文明ヲ入レサレバ外國ノ侵凌ヲ受ケテ國ヲ滅ス可シ之ヲ入ルレバ人民ニ權ヲ得テ政府ノ舊物ヲ顛覆ス可シ二者其一ヲ免カル可ラズ後世子孫必ス之ヲ目撃スル者アラン

以上所記ニ從ヘバ英國ノ政府ヲ改革スルモ又諸大臣ヲ黜陟スルモ其權柄ハ全ク人民ニ屬シテ國王ハ有レニ無キガ如ク之ヲ蔑視シテ顧ル者ナキヤト尋ルニ決シテ然ラズ王室ヲ尊崇スルハ英國一種ノ風ニシテ仮令ヒ如何ナル自由黨ノ劇論家ニテモ公然トシテ王室ノ尊威ヲ攻擊スル者ナシ啻ニ公然

家ニテモ公然トシテ王室ノ尊威ヲ攻擊スル者ナシ啻ニ公然

ナラザルノミナラズ其本心ノ私ニ於テ然ルモノ、如シ蓋シ
英人ノ氣象ハ古風ヲ体ニシテ進取ノ用ヲ逞フスル者ト云フ
可シ或ハ其度量寛大ニシテヨク物ヲ容ル、者ト云フモ可ナ
リ彼ノ佛蘭西其他ノ人民ガ自由ノ改革ト云ヘバ直ニ國王ヲ
目的トシテ之ヲ攻擊シ、王室恢復ト云ヘバ直ニ人民ノ自由ヲ
妨ケントスルガ如キモノニ比スレバ同年ノ論ニ非ス元來人
ヲ御スルノ法ハ習慣ニ由テ寛猛ノ別アル可キノミ試ニ下等
社會ノ家族ヲ見ヨ其子弟タル者甚頑強ニシテ容易ニ長者ノ
命ニ從ハズ其交際常ニ粗暴ナル言語ヲ用ヒ甚シキハ腕力以
テ之ヲ強迫シテ父母ニシテ手ツカラ其子ヲ打擲スル者多シ

之ヲ上等家族ノ子弟ガ父母ノ顔色ノ緩嚴ヲ窺フテ喜懼ヲ催
フス者ニ比スレバ甚シキ相違ナリ其然ル由縁ハ何リヤ唯習
慣ノ家風ニシテ上等家族ノ親子ハ相互ニヨク容レテ迫ラズ、
相親テ犯サムル者ノミ今英國ノ王室ト人民トノ間ハ恰モ此
上等家族ノ如キ者ニシテ嘗テ相犯スノ舉動ナキノミナラズ
中心ニ之ヲ犯スフモ忘レタル者チリ、犯サムル國王ハ益貴
ク、犯サムル人民ハ益親シク以テ社會ノ秩序ヲ維持スルハ人
間最大ノ美事ト云フ可シ文明ハ猶大海ノ如シ大海ハヨク細
大清濁ノ河流ヲ容レテ其本色ヲ損益スルニ足ラズ文明ハ國
君ヲ容レ、貴族ヲ容レ、貧人ヲ容レ、富人ヲ容レ、良民ヲ容レ、頑民

君ヲ容レ、貴族ヲ容レ、貧人ヲ容レ、富人ヲ容レ、良民ヲ容レ、頑民

ヲ容レ、清濁剛柔一切コノ中ニ包羅ス可ラザルハナシ唯ヨク
之ヲ包羅シテ其秩序ヲ紊ラズ以テ彼岸ニ進ム者ヲ文明トス
ルノミ區々タリ世上小膽ノ人、一度ヒ尊王ノ宗旨ニ偏スレバ
自由論ヲ蛇蝎視シテ其文字ヲモ忌ミ一度ヒ自由ノ主義ニ偏
スレバ國君貴族ヲ見テ己ガ肩ニ擔フ重荷ノ如クニ思ヒ一方
ヨリ門閥一切廢ス可シト云ヘバ一方ハ又民權一切遏ム可シ
ト云ヒ何ソ夫レ狼狽ノ甚シキヤ事物ノ極度ヨリ極度ニ渡テ
毫モ相容ル、ノ能ハザル其有様ハ恰モ潔癖ノ神經病人ガ汚
穢ヲ濯テ止ムヲ知ラザル者ノ如レ其愚笑フ可シ其心事憐ム
可シ啻ニ憐ム可キニ止マラズ世ノ亂階ハ大抵コノ輩ニ由テ

成ルモノナレバ此點ニ就テ觀レハ亦恐ル可キモノナリ
前ニ云ヘル英國ノ政權常ニ陳新交代シテ國安ヲ維持スル所
以ノ理由ヲ明ニセシニハ今ノ人類ノ心情ヲ察スルフ甚タ緊
要ナリ第一舊ヲ厭フテ新ヲ悅フハ人ノ心情ナリ山居スル者
ハ海ヲ悅ヒ海邊ニ住居スル者ハ山ヲ好ム衣服飲食住居ノ物、
暫ク之ニ慣ルレバ新様ヲ好マサル者ナシ或ハ新陳循園シテ
再ヒ舊物ニ逢フモ暫時中絶シタルモノナレハ亦新トシテ樂
シム可シ衣服首飾ノ時様ノ如キ年々歲々新奇ヲ工夫シテ其
工夫ニ窮スレバ復タ數年前ノ陳腐ニ立戻テ人ヲ悅ハシムル
モノ多シ、サレバ事物ノ好惡ハ其事物ノ性質ニ在ラスシテ我

心情ノ變遷ニ在ルモノト云フ可シ所謂賓的ニハ非スシテ主的ナルモノナリ今一國人民ノ心情ヲ以テ其國ノ政治ヲ視ルモ猶斯ノ如キモノニシテ必スシモ治風ノ性質如何ニ拘ハラズ唯舊チ厭フテ新チ待ツノ意ナキヲ得ス年々歲々同一ノ有様ニシテ社會ニ事件ナク官途ニ黜陟ナク常道無變世ノ靜謐ヲ坐視傍觀シテ端ナキ環チ週行スルカ如キハ情ニ於テ能ハサル事ナリ

第二今ノ社會ニ於テ一國政府ノ事ニ關スルハ人情ノ最モ悅フ所ナリ世ニ芝居ヲ好ム者甚タ少ナカラズ婦女子ハ無論學者士君子ノ流ニ至ルマデ雅俗共ニ之ヲ悅フハ各其見ル所ア

レバチリ然リト雖其觀客ノ衆中ニ於テ樂ヲ覺ルノ最モ大ナルハ狂言ノ作者ニシテ自作ノ芝居ヲ觀ル者ナル可シ作者ガ數日以前ニ筆ヲ執リ幽窓ニ獨坐シテ心ニ工夫ヲ運ラシ何様ノ暗君ヲシテ何様ノ奢侈ヲ恣ニセシメ、何様ノ寶物ヲ何處ニ藏メテ何様ニ紛失セシメ、美人薄命、忠臣零落、切齒扼腕其收局ニ至テ盜跖ハ誅夷セラレテ顏子ハ壽ナリナド、一心ノ中ニ生殺與奪ヲ想像シテ之ヲ一場ノ實ニ現ハシ以テ衆人ノ喜怒哀樂ヲ自由自在ニ制御スル其樂ハ殆ト譬ヘンニ物ナカル可ル今政府ノ議政行政ハ此作者ト役者トヲ兼ル者ニシテ社會ニ行ハル、所ノモノハ悉皆己ガ想像ノ中ニ在ラザルハナ

シ去年偶然ノ發意ハ之ヲ議定シ之ヲ施行シテ今年ノ事實ニ
行ハレ以テ千万人ノ喜怒哀樂ヲ支配ス可シ今日ノ事實ヲ見
テ感スル所アレバ明日ヨリ其改革ヲ工夫シテ功業ノ成否ヲ
試ム可シ恰モ一國社會ノ活劇場ニ立テ人ノ禍福ヲ制御スル
コナレバ誰レカ此事ニ當テ愉快ヲ覺ヘザル者アランヤ狂言
ノ作者モ尙且多少ノ愉快アリ况ヤ社會ノ實劇ヲ工夫シ施行
スルニ於テチヤ人民ノ熱心シテ參政ヲ企望シ其地位ヲ以テ
社會最上ノ地位トスルモ亦謂レナキニ非ザルナリ既ニ此レ
ヲ以テ社會ノ好地位トスル中ハコノ地位ニ居ル者ハ恰モ寶
ヲ抱テ人ニ示スノ有様ナレバ傍ヨリ之ヲ見テ之ヲ羨ムモ亦

今ノ世界ノ人情ナリ

第三他人ノ寶ヲ見テコレヲ羨ムハ人情ノ常トシテ姑ク之ヲ
許スモ爰ニ凡庸ノ心中、人ニ言フ可ラサルノ惡性アリ卽チ我
ニ益スル所ナクシテ他ヲ損セントスルノ情ナリ彼レ取テ代
ル可シト云フニ非スシテ彼レ斃レナバ聊カ人意ヲ慰ルト云
フノ惡念ナリ蓋シ羨ムトハ我有様ヲ上達シテ他ニ等シカラ
ンコト願フ者ナレモ我ニ益スル所ナクシテ他ヲ損セントス
ルノ情ハ羨ムニ非ズシテ妬ムナリ羨ムトムトハ大ニ區別
アリ混ス可ラズ譬ヘバ貧富比鄰其貧者ノ私心ヲ叩テ之ヲ吐
露セシメタラバ我貧ヲ以テ鄰ノ富ニ代ル歟又ハ我ニ富ヲ致

シテ鄰ノ富ト相對スルハ固ヨリ願フ所ナレモ若シモ富フ以
テ相對スルヲ得ズンバ鄰ヲ貧ニシテ貧ト貧ト相對スルモ聊
カ以テ滿足ナリト云フナラン極テ鄙劣ナル思想ニシテ殆
ト士君子ノ口ニモ語ル可ラザル程ノコナレ如何セん今ノ
凡庸世界ノ事實ニ於テ免ル可ラズ火難水難愛兒ヲ喪ヒ良人
ニ別ル、等何レモ人間ノ不幸ニシテ其不幸ニ罹タル人ガ他
ノ不幸ナル人ニ接シテ共ニ身ノ上ヲ語レバ其心事恰モ符節
ヲ合スルガ如ク俗ニ所謂悔ミ話シノ合口ナルモノニシテ甚
タ相親シムヲ常トス即チ同情相憐ムモノナリ同情相憐ムノ
語果シテ事實ニ於テ然ルキハ禍福ヲ殊ニシテ情ヲ同フセサ

ル者ハ相憐ムノ念薄クシテ却テ妬マシキ心情ナキヲ得ズ此
妬心ヲ満足スルニハ必ス我ニ益スルトナキモ他ニ損スル所
アレバ以テ一時ノ平ヲ得ヘキモノナリ今一國ノ政權ヲ執テ
事ヲ議定シ又施行スルハ俗世界ノ最モ榮譽トスル所ニシテ
俗眼ヲ以テ當路者ヲ視レバ即チ無上ノ幸福ヲ得タル者ナレ
バ之ヲ羨ムノミナラズ或ハ之ヲ妬ムノ心情ナキヲ得ズ凡俗
ノ情態、怪レムニ足ラズ且社會中ニ生來嘗テ地位ヲ得タルコ
ナキ者ハ貧賤ト雖凡或ハ之ニ慣レテ不満足ノ味ヲ知ラザル
者多シト雖凡一度ヒ富貴ヲ得テ更ニ之ヲ失フタル者ハ生涯
其舊ヲ忘ル、不能ハスシテ往々危險ヲ犯ス者ナキニ非ス難

其舊ナ忘ル、一能ハスシテ往々危險ヲ犯ス者ナキニ非ス難

船シタル船頭ハ必ス無理ニ金策ヲ運ラシテ再ヒ粗惡ナル船
ヲ造リ投機ノ商法ヲ以テ一度ヒ大家ヲ成シテ後ニ失敗シタ
ル者ハ必ス復タ無理ヲ犯シテ投機ニ從事セサルヲ得ズ政治
ノ社會ニ於テモ之ニ異ナラズ其社會中ニ不平ノ最モ甚シク
シテ危險ナル者ハ嘗テ好地位ヲ占メテ之ヲ失ヒシ者ナリ譬
へバ我日本ニテ云ヘバ免職ノ官員ヲ始トシテ全國ノ士族ハ
皆コノ類ニ入ル者ナリ此流ノ輩ハ世界ノ諸國ニ甚タ多シ何
レモ皆政府ニ地位ヲ求メテ當路ノ者ニ交代センコト欲シ假
令ヒ或ハ自カラ之ニ代ルヲ得サルモ陳新交代ノ際ニ失路ノ
人アレバ之ヲ傍観シテモ其私心ノ底ニハ多少ノ快ヲ覺ル者

ナリ結局政府ノ改革ヲ嫌フ者ハ少ナクシテ之ヲ企望スル者
ハ甚タ多シ今ノ世界ノ人情ニ於テ改革ハ避ク可ワサルフナ
ラン

又第四ニ己ノ身ニハ毫モ關係ナク毫モ損益スル所ナクシテ
唯漠然ノ際ニ徒ニ他ノ難澁ヲ見テ悅フ者少ナカラズ人類以
下ノ動物ニ對シテハ所謂無益ノ殺生ナルモノ是ナリ其無益
チ知ラザルニ非スト雖此之ヲ好ム者多キチ如何ン亦是レ今
世ノ人情歟、特リ動物ノミナラズ或ハ同類ノ人ニ對シテモ此
情ナキナ得ズ驟雨ニ人ノ狼狽スルヲ見テ悅ヒ、旅人ノ犬ニ吠
ヘラル、ナ見テ笑ヒ、堂々タル武士落馬シテ衣裳ヲ穢シ、豊々

タル美人車ヨリ落テ醜体ヲ露ハス等其本人ニ於テハ無上ノ
難澁ナレモ皆以テ路傍ノ人ノ一興ヲ増スニ足ル可シ尙甚シ
キハ火事ヲ見物スル者アリ人ノ家ヲ燒キ財産ヲ失ヒ老若男
女狼狽奔走スル其有様ハ實ニ氣ノ毒ナル次第ニシテ人間畢
生ノ大災難ト稱ス可モノノナレモ遠方ヨリ見物スル者ハ毫
モ之ヲ心ニ關セザル歟古來彼岸ノ火事ヲ見テ笑フ者アルモ
泣ク者アルヲ聞カズ然カノミナラズ出火ト聞テ見物ニ出掛
ケ頬ニ鎮火スレバ却テ大ニ落膽シテ其顏色不平ナルガ如キ
者アリ人間ノ心思實ニ驚駭スルニ堪ヘタリ然リ而シテ此心
思ノ動ク所ハ元ト美ムニモ非ズ妬ムニモ非ズ唯徒ニ一時ノ

興ヲ催フスマデノ事ナレ世間古今ノ事實ニ於テ然ル中ハ
之ヲ一種ノ人情ト云ハザルヲ得ズ京都ノ俳人梅室ノ句ニ「愛
相に、もひとつころベ雪比人」トハ是等ノ人情ヲ寫出シタルモノ
ノナラシ其意味甚タ深キガ如シ故ニ今政府ノ改革ニ就キ之
ガ爲ニ毫モ損益スル所ナキ者ニテモ當路者ノ陳新交代ニ由
テ頓ニ失路ノ人ヲ見ルハ恰モ人民ノ爲ニ落馬落車雪ニ倒ル
ルノ一興ヲ催フスマノニシテ老成ノ勘辨アル學者歟又ハ其
政府ニ直接間接ノ關係アル者ヨリ以下ノ衆庶ハ大抵皆コレ
ヲ悅ハザル者ナシ是亦政府ノ永續ヲ妨ケテ其改革ニ故障ヲ
減スル一種ノ事情ナリ

以上枚舉スル如ク政府ノ變革ヲ好ムハ世界普通ノ人情ニシテ殊ニ千八百年代文明ノ進歩ニ際シテハ其變革ヲ促スノ勢日ニ益急ナルガ如シ苟モ政府ヲ立テ、一定不變ノ治風ニ從ヒ之ヲ永年ニ持續シタルノ例ハ千七百年ヨリ以上未タ近時ノ文明ニ逢ハザル時代ニ於テ英明ノ君主ガ獨リ政權ヲ握リ恩威ヲ以テ萬民ヲ統御撫育シタル者ノ外ニ求ム可ラズ今日ニ在テハ假令ヒ明君英主ニテモ文明ノ風波ニ堪ルハ甚タ易カラズ魯國ノ今帝ノ如シ天資英邁ニシテ其教育モ亦尋常ナラズ歐州諸國ノ帝王ニ比シテ決シテ一步ヲモ讓ル可キ人物ニ非ザレモ其政治ニ困却スル前章所記ノ如シ況ヤ君主自

カラ政府ノ實權ヲ執ラズシテ他ニ任スル「英國」ノ如クナルモノニ於テニヤ國安ヲ維持スルノ術ハ唯時ニ隨テ政權ヲ受授スルノ一法アルノミ此一義ハ和漢古今未だ人ノ言ハザル所ナレ凡唯コレヲ明言セザルノミニシテ事實ニ於テハ古來ノ歴史上ニモ行ハレテ人モ亦暗ニ論シタルモノ、如シ榮華久シク居ル可ラズト云ヒ功成リ名遂ケテ身退クハ天ノ道ナリト云フガ如キハ功臣ノ私ヲ戒シメタル言ニシテ蓋シ此意ナラン固ヨリ古代ノ和漢ト今代ノ西洋諸國トヲ比較スレバ其社會ノ仕組モ殊ニシテ今ノ西洋ニテハ一体ノ政黨ニ就テ論シ古ノ和漢ニテハ一個人ニ就テ言フコナレ凡其言ノ意味

ヲ擴メテ之ヲ考レバ畢竟政權ノ歸スル所、一處ニ定リテ永年
不變ノ有様ニ居ル中ハ必ズ様々ノ故障ヲ生シテ禍ヲ致スト
ノ意ヲ表スルモノヨリ外ナラズ古今ノ情態自カラ暗合スル
所アルヲ知ル可シ又國家創業多事ノ日ニ明君賢相、力ヲ協セ
テ國事ヲ整理シ其宰相ガ久シク位ニ居テ輔佐ノ功ヲ成シタ
ルノ例ハ少ナカラズト雖太平無事ノ天下ニ名臣良弼ガ十
數年ノ間ヨク貴要ノ地位ヲ占メタル者ハ歴史ニ於テ殆ド稀
ナリ但シ武功ノ元老唐ノ郭子儀裴度ノ如キハ却テ樞密ニ關
セズシテ例外ナレ由純粹ノ文官ニシテ天下ノ政權ヲ一手ニ
握リ永ク其位ヲ保タントスルハ殆ド難キコニシテ若シモ強

ヒテ之ヲ保タントスレバ必ズ奸惡ノ名ヲ蒙ラザルハナシ唐
ノ李林甫宋ノ秦檜ノ如キ是ナリ秦檜ノ惡ハ外國交際ノ事ニ
關スルモノナレバ之ヲ他日ノ論ニ附シ今李林甫が惡名ヲ得
タル所以ヲ尋ルニ古今ノ史論ニ從ヘバ其罪ハ言路ヲ杜絶シ
賢能ヲ忌ミ屢大獄ヲ起シテ人ヲ害ス云々トテ專ラ其心事ノ
陰險ナルヲ惡ムモノ、如シ余モ亦論者ト見テ同フシテ決シ
テ此罪人ニ左袒スルニハ非ザレニ竊ニ案スルニ林甫が言路
ヲ杜絶シテ屢大獄ヲ起シタルハ其性陰險ナルガ故ニ殊更ニ
人ヲ害シテ以テ愉快ヲ覺ルニ非ズ唯相位ヲ固クセント欲ス
ルノ一念ヨリ止ムヲ得ズシテ斯ル慘酷ノ罪ヲ犯シタルモノ

ノミ此時ニ當テ天下太平日久シク有志ノ壯年學者論客ノ輩
ハ恰モ無事ニ奢メラレテ殆ド身ヲ安ンスルノ地ナキガ如キ
其最中ニ林甫獨リ全權ヲ以テ相位ニ在ル十九年トアリ誰カ
之ヲ羨マザル者アランヤ、之ヲ羨ミ之ヲ妬ミ或ハ劇論ヲ以テ
之ヲ犯ス者モアラン或ハ暗殺ヲ陰謀ヲ企テ、之ヲ倒サントスル者
モアラン尙甚キハ暗殺ヲ工夫シタル者モアラン此人心ノ波
瀾ヲ鎮靜セントナラバ速ニ一封ノ辭表ヲ呈シ冠ヲ掛ケテ去
ル可キナレモ林甫ノ策、此ニ出テズシテ毫モ憚ル所ナク儼然
相位ニ居テ動カザルハ陰險ニ非スシテ屈強剛愎ト云テ可ナ
ラン故ニ林甫ノ罪ハ唯位ヲ貪ルニ在テ其慘酷陰險ノ舉動ハ

畢竟位ヲ固クスルノ方便ノミ苟モ位ヲ固クセントスルニハ
人ヲ倒サ、マルヲ得ズ、人ヲ倒サ、レバ則チ人ニ倒サル、ヤ必
セリ二者其一ヲ免ル可ラズ或ハ天稟ノ性質林甫ノ如クナラ
ザル人物ニテモ林甫ノ權柄ヲ執テ十九年ノ相位ヲ保タント
セバ必ズ亦林甫ノ策ヲ學フナラン勢ノ然シムル所ニシ
テ人ノ罪ニ非ズ其本人ノ爲ニモ取ラズ社會ノ爲ニモ亦不幸
ナルモノト云フ可シ余弱冠ノキ和漢ノ歴史ヲ讀テ樂マザル
モノアリ名臣良輔暫ク位ニ在レバ輒チ黜ケラレ他人ユレニ
代テ復タ久シキヲ得ズ史中比々皆是ナリ誠ニ隔靴ノ歎ヲ免
カレズ時トシテハ切齒扼腕卷ヲ拋テ怒ル程ノコナリシガ今

ニシテ考レバ其位ニ久シカラザルハ名臣タル由縁ナリトノ
事ヲ發明セリ李林甫ノ如キモ宰相タルフ兩三年ニシテ位ヲ
去タラバ或ハ唐代名臣ノ列ニ入テ後世ノ史論家ニ惜マル、
フモアラン遺憾ト云フ可シ然ハ則チ隨時ニ政權ヲ受授スル
ノ要用ナルハ千百年ノ古ヨリ事實ニ於テ違フナキヲ知ル可
シ况ヤ今ノ活潑世界ニ於テナヤ千八百年代ノ後ニ至テハ益
其急ナルヲ見ル可キナリ

尙前ノ事實ヲ明ニスルタメ英國ニ行ハレタル政權受授ノ期
限ヲ示シテ其實ヲ證セン亞米利加ノ合衆國ハ毎四年ニ大統
領ヲ改撰シ隨テ内閣ノ諸卿モ一新スルノ法ナレ由英國ニ於

テハ其年限ヲ定メズ内閣ノ執權（プライム、ミニストル太政大臣ト譯スルモ可ナラン）ヲ始トシテ諸卿ニ至ルマデモ終身在职シテ妨ナキ法ナレモ事實ニ於テハ決シテ然ラズ左ノ表ハ千七百八十四年ヨリ千八百七十九年ニ至ルマデ九十六年ノ間同國執權ノ新陳交代シタル年月日ト其在職ノ期限トヲ示スモノナリ

就職ノ日	在職ノ时限	執權ノ人名
千七百八十三年十二月廿三日	十七年八十四日	ウ ^ヰ ルリヤム、ピット
千八百一年三月十七日	三年五十六日	アザントン
千八百四年五月十五日	一年二百四十一日	ウ ^ヰ ルリヤム、ピット

千八百六年二月十一日	一年六十四日	グレンウ [#] ル
千八百七年三月卅一日	三年百二日	ポルトランド
千八百九年十二月二日	一年三百五十日	ペルセワル
千八百十二年六月九日	十四年三百七日	リイウルプール
千八百二十七年四月廿四日	百二十一日	カンニング
千八百二十七年九月五日	百六十八日	ゴデリッヂ
千八百二十八年一月廿五日	三年三百一日	ウェルリントン
千八百三十年十一月廿二日	三年二百三十一日	グレイ
千八百三十四年七月十八日	百二十八日	メルボルン
千八百三十四年十二月廿六日	百三十一日	ロベルト、ピール

千八百三十五年四月十八日

六年百三十八日

メルボルン

千八百四十一年九月六日

四年二百九十五日

ロベルト、ピール

千八百四十六年七月六日

五年百七十三日

リュッセル

千八百五十二年二月廿七日

二百九十三日

デルビー

千八百五十二年十二月廿八日

二年三十七日

アベルデーン

千八百五十五年二月十日

三年二十四日

パルマストーン

千八百五十八年二月廿五日

一年百四日

デルビー

千八百五十九年六月十八日

六年百二十二日

パルマストナン

千八百六十五年十一月六日

二百四十二日

リュッセル

千八百六十六年七月六日

一年二百四十一日

デルビイ

千八百六十八年二月廿七日 二百三十五日

デスリエリ

千八百六十八年十二月九日

五年七日

グラッドストーン

千八百七十四年二月廿一日

今尚在職

デスリエリ

右九十六年ノ間執權ノ交代二十六代、在職ノ時限短キモノハ
百二十一日長キモノハ十七年八十四日、五年以上ノ者ハ今ノ
執權「デスリエリ」ヲ合シテ七名、十年以上ノ者ハ二名ノミ又コ
ノ九十六年ヲ二十六代ニ平均スレバ一代在職ノ時限三年六
分九厘餘ニ當リ之ヲ亞國四年在職ノ者ニ比スレバ其交代却
テ速ナルヲ見ル可シ抑モ亞米利加建國ノ時ニ政体ヲ作テ大
統領ノ交代ヲ四年ト定メタルハ必ス偶然ニ非ス當時ノ諸名

士ガ世界古今ノ形勢沿革ヲ察シテ一國政府ノ樞要ニ關スル者ハ其位ヲ久シクス可ラズトノ事實ヲ發明シ之ヲ議定シテ以テ國法ト爲シタルモノナラン唯英國ニ於テハ交代ノ國法約束ナキノミナレ凡其政權ヲ受授スルノ實ハ亞國ニ異ナルナシ是亦偶然ニ非ズ畢竟英國歷代ノ實驗ヲ經テ遂ニ一種ノ治風ヲ成シ以テ當時ノ國安ヲ維持シテ社會ノ繁榮ヲ助ケタルモノナレバ之ヲ先代ノ鴻業ト云ハザルヲ得ズ然リト雖凡其治風ナルモノガ千八百年代ノ今日ニ至リ特ニ文明進歩ノ時勢ニ適シテ毫モ社會ノ面ニ震動ヲ覺ヘザルノ美績ハ蓋シ先人モ嘗テ期セザリシ所ナラン先人ハ今代ノ文明ヲ前知セ

サリシ者ナリ之ヲ前知セスシテ之ニ適スルノ治風ヲ遺シタルハ偶然ノ賜ト云フ可シ余ガ特ニ英政ヲ稱贊スルモ前ニ論シタルガ如ク唯コノ一點ニ在ルノミ

又隨時ニ政權ヲ受授スルノ緊要ニシテ成規約束ノ有無ニ拘ハラズ必ス事實ニ行ハルヽノ證ハ之ヲ西洋諸國ニ求メズシテ近ク我日本ノ先例ヲ見テ知ル可シ日本ニテ徳川ノ初年ハ幕府モ諸藩モ所謂明君賢相ノ相共ニ事ヲ爲ス者多クシテ政權ハ都テ君上ノ手ニ在ル時代ナレバ之ヲ例外トシテ閣キ其後太平日久シキノ間ニハ概シテ明君ハ甚タ稀ナルモノトセサルヲ得ズ其明君ニ乏シキ時代ニ於テ諸藩中家老ニテモ用

人ニテモ藩政ノ實權ヲ握ル者ガ十數年ノ間、在職シタルノ例
ハ極メテ稀ナルガ如シ余ハ多年此事ニ注意シテ諸舊藩ノ古
老ニ質スニ大抵皆然ラザルハナシ執權ノ重臣ハ一年ニシテ
辭職シ三年ニシテ黜ケラレ甚シキハ藩中ノ物論沸騰シテ之
ヲ奸臣ト名ケ不忠者ト稱シ之ガ爲ニ遂ニ蟄居申付ケラルレ
バ其代リトシテ職ニ就ク者ハ即チ前年同様ノ故障ヲ以テ禁
錮セラレタル重臣ニシテ此度ノ再勤ヨソ青天白日ノ愉快ナ
リト得意ノ日月モ亦復タ久カラズシテ再ヒ風雨ニ際シ嘗ニ
位ヲ全フセザルノミナラズ身ヲモ全フルヲ能ハザル其事
情ハ各藩符節ヲ合スルガ如シ但シ諸藩ノ事ハ廣クシテ之ヲ

調査スルヲ甚タ易カラズ頃日幸ニシテ徳川政府ノ御老中御勝手方ノ在職年表ヲ得タレバ之ヲ左ニ示ス

就職ノ年月	在職ノ时限	御老中御勝手方姓名
寶曆十二午年十二月	十六年七箇月	松平右近將監
安永八亥年七月	二年二箇月	松平右京太夫
天明元丑年九月	五年十箇月	水野出羽守
天明七禾年七月	二年五箇月	松平越中守
寛政元酉年十二月	二年八箇月	水野出羽守
寛政四子年八月	十一年四箇月	松平伊豆守

					享和三亥年十二月	二年四箇月	戶田采女正
					文化三寅年四月	十年六箇月	牧野備前守
					文化十三子年十月	一年四箇月	土井大炊頭
					文政元寅年二月	十六年	青山下野守
					天保五年二月	三年一箇月	水野出羽守
					天保八酉年三月	六年六箇月	大久保加賀守
						松平周防守	松平周防守
						水野越前守	水野越前守
						水野越前守	水野越前守

天保十四卯年閏九月

十箇月

土井大炊頭

眞田信濃守

天保十五辰年七月

十六年五箇月

阿部伊勢守

堀大和守

萬延元申年十二月

以下慶應三年ニ至ルマ

安藤對馬守

テ七年ノ間ハ幕府ノ末

水野和泉守

期國事多端ニシテ御老

松平豊前守

中ノ出處モ殆ト常ナキ

板倉周防守

ガ如キモノナレバ其在

松平紀伊守

職ノ时限モ之ヲ畧ス

松平周防守

寶曆十二年十二月ヨリ慶應三年ニ至ルマテ百五年ノ間御老
中御勝手方ノ在職二十代、コレヲ平均スレバ一代ノ时限五年
二分五厘ナレモ萬延元年安藤對馬守以下六名ハ之ヲ除キ寶
曆十二年十二月ヨリ萬延元年十一月ニ至ルマテ九十八年間
ノ有様ヲ見ルニ在職十四代ノ内長キハ十六年七箇月短キハ
二年二箇月、天保十四年ヨリ同十五年マデ十箇月ノモノアレ
凡同勤三名ノ内水野越前守ハ全權ニシテ天保八年ヨリ起リ
タルモノノナレバ其實ハ七年四箇月ナリ又此十四代ノ内十年
以上ノモノハ五代ニシテ五年以上ノモノハ七代ナリ此惣數
ヲ九十八年ニ平均スレバ一代ノ在職正シク七年ニシテ分數

ナシ

右七年ノ數ハ之ヲ亞英兩國ノモノニ比スレバ緩漫ナルガ如クナレ凡別ニ又御勘定奉行ノ新陳交代ヲ見レバ甚タ速ナルモノアリ舊幕府古老先生ノ所說ヲ聞クニ徳川ノ政府モ太平ノ時代ニ爲リテハ將軍躬カラ事ヲ執ルニ非スシテ專ラ權柄ノ歸スル所ハ御老中、若年寄ト御勘定奉行トニ在リ而シテ此三役ノ中ニ各御勝手方ナル者アリテ會計ノ事ヲ統轄ス最モ權力アリ故ニ御老中ノ御勝手方ハ政府最上ノ執權トシテ視ル可シ又御勘定奉行モ公事方ト御勝手方ト兩様ニ分レ公事方ハ専ラ地方ノ裁判ヲ司リ御勝手方ハ錢穀ヲ司リテ全權ハ

御勝手方ニ在リ若年寄ハ御老中ノ次席ニシテ位貴シト雖
實力ニ至ラハ往々御勘定奉行ニ及ハザルモノアルガ如シ全
權ノ御勘定奉行ハ其名義御勝手方トアレニ權力ノ及フ所甚
タ廣クシテ錢穀ノ出納ハ無論、凡リ政府ノ機密一トシテ關係
セザルハナク幕臣ノ黜陟モ内實ハ其手ニ成ルモノ少ナカラ
ズ且其人物ハ必スシモ大祿ノ旗本ノミニ限ラズ往々卑賤ヨ
リ立身シテ其地位ニ昇ル者多キガ故ニヨク世間ノ事情ニ通
達シテ活潑力ニ乏シカラズ之ニ反シテ御老中ハ所謂大名ナル
者ニシテ動モスレバ下情ヲ知ラズ之ガ爲ニ稀ニハ御老中ニシテ却テ御勘定奉行ニ依頼スル者アル程ノ勢ナリト云フ

此外ニ大目付御目付等モ權力ナキニ非サレモ畢竟表役ナレバ唯成規ヲ守テ之ヲ維持スルノミニシテ臨時ニ事ヲ左右スルノ地位ニ非ス又内向ニ御側取次ナル者アリテ甚タ有力ナルニ似タレニ其力ハ唯將軍ノ座右ニ近キガ爲ニ得ルモノニシテ廣ク政府上ニ事ヲ爲ス可ラズ此他御奏者番ナリ諸番頭ナリ毫モ政府ノ機密ニ關スルヲ得ズ全ク無力ノ者ト云テ可ナリ右ノ次第ニ付御勘定奉行ハ幕臣十目ノ屬スル所ニシテ旗本御家人ノ有志者ガ畢生ノ力ヲ以テ青雲ニ志シ其目的トスル所ハ唯コノ地位ニ在ルノミ即チ羨ム者多ク妬ム者多ク、之ニ代ラント欲スル者多ク、之ニ代ルヲ得ザルモ其失路ヲ見

ヲ悅フ者多キノ地位ナリ結局一身ヲ以テ永年ニ持續ス可キ
地位ニ非ザルナリ其事實ヲ證センニハ文政元年ヨリ慶應三年
ニ至ルマテ五十年ノ間ニ御勘定奉行ノ御勝手方三十六名
アリ二人勤ナルガ故ニ之ヲ半折シテ在職ノ新陳交代十八代
ナリ之ヲ平均スレバ在職ノ一代二年七分七厘ト爲ル其永續
ノ難キヲ以テ見ル可シ之ニ反シテ彼ノ御奏者番諸番頭等ノ
如キハ殆ト終身官ノ有様ニテ他役ニ昇進スルニ非サレバ十
年二十年モ一處ニ止テ動クフナシ其寥々タルフ恰モ山居無
事人ノ來テ訪フナキ者ノ如シ竊ニ案スルニ英亞諸國ニテ司
法官ハ大抵終身官ニシテ嘗テ故障ヲ見サルモ其原因ハ事務

ノ靜ナルガ爲ナル歟、固ヨリ彼ノ司法官ト日本ノ御奏者番又
ハ御目付等ヲ比スレバ其性質全ク殊ナルモノナレ。西洋諸
國ニテハ議政行政司法ノ三權其分界甚タ明白ニシテ司法官
ノ職掌ハ唯一定ノ法ヲ守ルノミノ事ナレバ自カラ社會ニ威
福ヲ及ホスフ少ナキガ故ナラン人民ノ耳目ヲ屬シテ最モ煩
ハシキハ議政行政ノ樞機ニ在ルモノト知ル可シ

本章ノ初ヨリ所論ノ大意ヲ概スレハ千八百年代ニ在テヨク
其文明ノ衝ニ當リ嘗テ震動ヲ覺ヘザルモノハ特ニ英政ヲ以
テ然リトス、英國ノ政權ハ守舊改進ノ二黨派ニ歸シテ一進一
退其受授ノ法甚タ滑ナリ、政權全ク人民ニ歸スト雖曰尊王ノ

意亦甚タ厚シ、隨時ニ政權ヲ受授スルノ緊要ナルハ世界ノ人情ヲ察シテ知ル可シ之ヲ枚舉スレバ四條ニ分ツ可シ、此事ノ緊要ナルハ特リ西洋諸國ノミナラズ古代ノ和漢ニ於テモ其寶ヲ見ル可シトノ趣意ニシテ記者ノ所見ハ特ニ英政ノ機轉ヲ稱賛スルモノナリ今後世界ノ諸國ニ於テ苟モ千八百年代ノ文明ヲ利用スル者ハ必ス英ノ治風ニ倣フテ始テヨク其人民ノ不平ヲ慰メテ國安ヲ維持スルヲ得シノミ今ノ世界ノ人類ニ對シテ其不平不満足ノ原因ヲ除キ盡サントスルハ固ヨリ人力ノ能ス可キニ非ス英ノ治風ニ從ヘバトテ不平論ノ消滅ス可キニハ非ザレモ不平論ニテモ正論ニテモ其論議ニ力

チ得レバ輒チ其力ヲ逞フシテ一時ノ平チ得セシメ復タ暫時ニシテ一方ノ論議喧シキニ至レバ輒チ之ニ讓テ其力ヲ逞フセシメ恰モ政府ノ每一新ニ不平ノ實ヲ除クニハ非サレニ之ヲ瞞着シテ之ヲ忘レシムル者ノ如シ即チ其一新ノ時節ハ舊キ不平ノ既ニ衰ヘテ新ラシキ不平ノ正ニ熟シタル秋ナリ其政府ノ持續スル時限ハ此新不平ヲ慰メテ更ニ又他ノ一新不平ヲ養成スルノ時限ナリ其狀恰モ去年ノ舊穀ヲ食フノ間ニ今年ノ新穀漸ク熟スルモノ、如シ其新舊ノ期節ヲ誤ラズシテ互ニ交代スルノ勵ハ機轉ノ妙所ト稱ス可キナリ

我日本ニテモ國會ヲ開テ立憲ノ政體ヲ立ルノ必要ナルハ朝

野共ニ許ス所ニシテ嘗テ之ヲ非スル者アルヲ聞カズ或ハ世上ノ論者ガ國會ノ設立尙早シト云ヒ、徐々ニ之ニ進ム可シト云ヒ、漸ク其用意ヲ爲ス可シト云ヒ都テ之ヲ急ニセザルガ如キハ實ニ老練シタル考按ニシテ余モ亦コレニ同意ナリト雖愚論者ガ之ヲ急ニセザル所以ノ理由ヲ述テ其證據トスル所ヲ聞ケバ往古英國ニテ國會設立ノ沿革ハ斯ノ如クナリシト云ヒ、佛蘭西ニテ遽ニ之ヲ設ケントシヲ云々ノ災害アリシト云ヒ何レモ皆近事ノ文明ヲ見ザル以前ノ時代ニ行ハレタル事實ヲ引證シテ以テ今日ノ事ヲ判断スル者ノ如シ蓋シ論者ハ唯漠然トシテ西洋諸國ノ文明ヲ知レニ其文明ナルモノガ

千八百年代ニ至テ一面目ヲ改メ恰モ人間世界ヲ顛覆シタル
ノ事實ヲバ忘レタル者ナラン我日本ハ既ニ其近時ノ文明ヲ
利用シテ以テ今日ノ有様ヲ致セリ此日本ノ爲メヲ謀テ此日
本ノ事ヲ判断スルニ今ヲ去ル「六百五十餘年ノ英國ヲ持出
シ彼國王「ジョーン」ノ時ニ有名ナル「マグナカルタ」ニ調印シ次テ
百年ヲ過ギ三百年ヲ經テ次第ニ人民ノ自由ヲ得タルカ如キ
緩漫至極ノ沿革ヲ論シテ以テ今日ノ事ヲ徐々ニスルノ引證
ニ用ヒントスルモ畢竟無益ノ空言ニシテ聞クニ足ルモノナ
シ所謂莘蠋ノ事情ヲ說テ胡蝶ニ告ル者ナリ誰カ之ニ耳ヲ傾
ル者アランヤ試ニ見ヨ我日本ハ開國二十年ノ間ニ二百年ノ

事ヲ成シタルニ非スヤ皆是レ近時文明ノ力ヲ利用シテ然ルモノナリ本編第三章ノ初ニ古人七十歳ノ壽ヲ以テ爲シタル事業ハ今人三年ノ間ニ之ヲ終ル可シトハ蓋シ是ノ謂ナリ此長足進歩ノ時ニ當テハ國勢更ニ復タ一變シテ早晚國會ヲ開クノ日アル可キ萬々疑チ容レズ唯其時ニ於テ政權ヲ得タル者ガ永世不變ヲ謀ルコナク事ノ始ヨリ暫時ノ後ニハ必ズ復タ交代スルモノト覺悟シテ恰モ政權ノ席上ニ長坐スルノ弊ナキヤウ企望スル所ナリ本章ノ旨ハ唯コノ一點ニ在ルノミ

明治十二年七月三十一日版權免許

著述出版人

福澤諭吉

東京三田貳丁目貳番地

同三鷹町拾番地

山中市兵衛

同日本橋通三丁目拾四番地

丸家善七

同三田貳丁目貳番地

慶應義塾出版社

肆書捌賣

同上

同上

同上

同上

同上

狼害鐵

大

小

山中

山中

山中

山中

山中

鑿出刃入

山中

山中

山中

山中

山中

同上

同上

同上

同上

同上

同上

福澤氏藏版書目

西洋事情初編	三冊	定價七十五錢	頭書 大全	世界國盡	三冊	定價錢	壹圓廿五
同	二編	四冊	同	壹圓	本素	世界國盡	三冊
同	外編	三冊	同	七十五錢	清英交際始末	貳冊	同
西洋旅案內	貳冊	同	五厘	三十七錢	四十三錢	七厘五毛	
條約十一ヶ國記	壹冊	同	七錢五厘	學問勸十七編迄	壹冊	同	廿五錢
華英通語	壹冊	同	三十錢	童蒙教草初編	三冊	同	三錢三厘
窮理圖解	三冊	同	廿五錢	同	二編	貳冊	同
萬國一覽袖珍	壹冊	同	拾錢	帳合法初編	零式	貳冊	同
英議事院談	貳冊	同	四十三錢	六十五錢	三十七錢	五厘	
同	二編	本式	貳冊	同	六十五錢		

第一文字教

壹冊

定價
十二錢五
厘

通

貸

論

壹冊

同
十二錢

第二文字教

壹冊

同
十二錢五
厘

通

民

權

論

壹冊

同
廿貳錢

同附錄

壹冊

同
十二錢五
厘

通

國

權

論

壹冊

同
三十五錢

子供日本地圖草紙折本

一冊同
十二錢五
厘

通

俗

國

權

論

壹冊

同
三十五錢

眞字素本世界國盡

壹冊

同
十二錢五
厘

通

俗

同

二編

壹冊

同
廿二錢

會議辯

壹冊

同
七錢五厘

通

俗

民情

一新

壹冊

同
七十五錢

文明論之概畧

六冊

同
貳圓

學者安心論

壹冊

同
十五錢

分權論

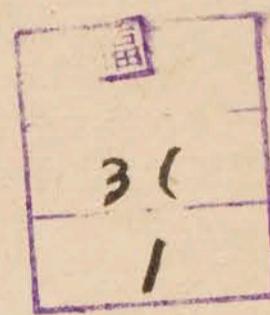
壹冊

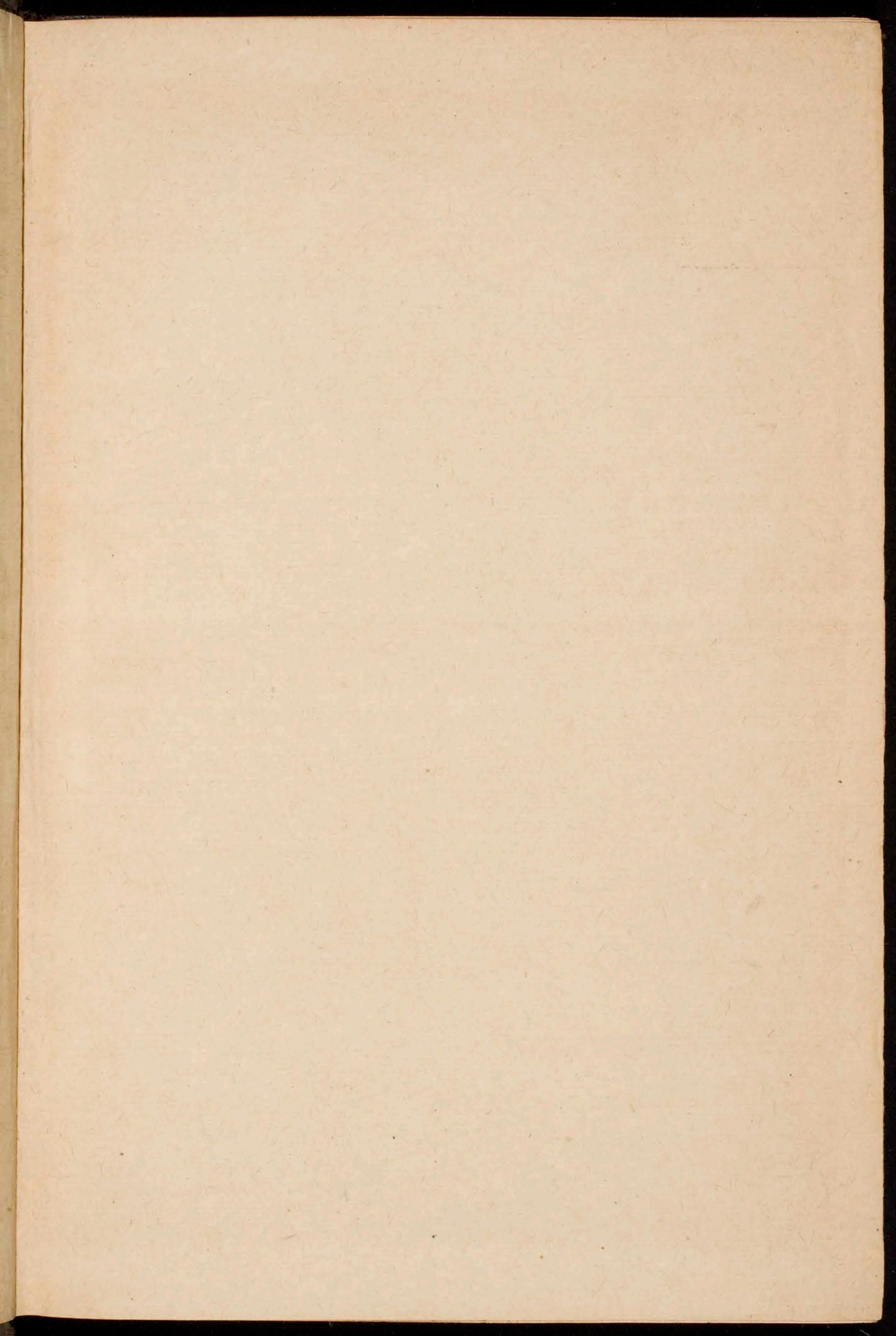
同
四十錢

民間經濟錄

壹冊

同
廿五錢





三田
清水書店

¥

40

書名

No.

